



長崎伝習所

《令和 6 年度 研究成果報告書》



目	次
---	---

総長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
運営委員からのメッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・	3
長崎伝習所概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
長崎伝習所の活動記録(運営委員会、塾長会議など) ・・・・・	8
塾研究成果報告	11
「はじめて」の地域活動やってみよう塾 塾長 林田 慎一	13
ながさき山城・砦 探検魅力発信塾 塾長 山喜 邦次	19
渋谷・長崎歴史文化情報発信塾 塾長 倉持 基	31
つながり事業成果報告	59
若者向け特別講座 Me-revo・・・・・・・・・・・・・・・・	60
若者まちづくりチャレンジ補助金成果報告	63
誰でもふらっと立ち寄れるコミュニティセルフカフェ「よりみち」・・・・・	64
アフリカにある国ってどんな国だろう？・・・・・・・・	66
資料編	69
塾卒業者数の変遷・・・・・・・・・・・・・・・・	71
フォローアップ塾の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	84
若者まちづくりチャレンジ補助金の概要・・・・・・・・	86
長崎伝習所要綱・・・・・・・・・・・・・・・・	87
令和6年度版 ポスター・チラシ・・・・・・・・	89

長崎伝習所 40 周年に向けた新たなチャレンジ

『長崎伝習所』は、幕末に多くの人材を輩出した「海軍伝習所」「医学伝習所」などに由来し、昭和 61 年に設立して以来、人材のネットワークづくりと地域の活性化につながる人材育成の場として、様々な取り組みを行ってきました。



長崎伝習所の柱である『塾事業』では、長崎を魅力ある元気なまちにするために市民と行政が力を合わせて活動を行い、設立 39 年目となった令和 6 年度までに、累計 309 の塾による様々な活動が行われ、卒業した塾生の総数は延べ 10,386 人となりました。これら塾の中には、卒業後もそれぞれで活動を続け、長崎のまちづくりに貢献していただいている塾もご紹介します。

さて、令和 6 年度は、長崎で 2 つの塾、東京で 1 つの塾が活動し、うち 2 つの塾が令和 5 年度に引き続き活動されました。今年度新規の塾として「『はじめて』の地域活動やってみよう塾」では、はじめて地域活動に挑戦する人に向けマニュアルを作成しました。継続塾としては、「ながさき山城・砦 探検魅力発信塾」が中近世の山城を調査・研究し、魅力を SNS や冊子により発信し、「渋谷・長崎歴史文化情報発信塾」では江戸時代後期から明治時代に長崎で商売や勉強をしたのちに名を挙げた偉人の東京での足跡に関する情報発信するなど、それぞれのテーマで調査、研究、そして実践活動に取り組んでいただきました。

また、令和 6 年度はより多くの若い世代の参画を目指し、まちづくりにチャレンジする若者を応援する「若者まちづくりチャレンジ補助金」の整備や、若者が地域や社会に目を向けて行動するきっかけとなるよう、先進的な取り組みでご活躍されている方々をお招きした講座「特別講座 Me-revo」などを実施しました。特に、特別講座 Me-revo は 3 回開催し、30 代以下の参加者割合が平均 40% を超えるなど、一定若い世代にリーチすることができたものと考えています。

令和 7 年度は、長崎伝習所が 40 周年を迎える節目となります。これまでの取組に加えて 40 周年記念事業や時代の変化に対応した見直し等に取り組んでいきたいと考えております。

結びに、塾長をはじめ塾生の皆さまのご努力と、お忙しいなかご指導いただきました運営委員の皆さま、並びに、長崎伝習所の活動にご協力をいただきましたすべての皆さまに対しまして、心から厚く御礼申し上げます。

長崎伝習所 総長 鈴木 史 朗

運営委員からのメッセージ



●運営委員 座長 河村 規子

今年度は継続塾が2つ、新しい塾が1つだけという塾数は少ないスタートでしたが、それを上回るようなパワーで、各塾ともに熱心に楽しみながら活動されて、素晴らしい成果を残していただけたこと、とてもうれしく思っています。各塾独自の趣向を凝らした活動報告からは、みなさんの長崎への愛、まちを良くしたい！という思いを感じることができました。

毎年蓄積されていく報告書は、長崎市の財産です。長崎伝習所の活動が未来の長崎の元気につながることを願っています。



●運営委員 阿部 美和子

長崎のマチをフカボリした塾生の皆様へ。

塾活動を始める前と今見える、感じる、長崎の景色はどのような変化があるか、また『成功』の結果ではなく、自分から動いたことの素晴らしさを是非みなさんの声で発信していただけたらと思います。

体験に勝る成長はない！

これからも『好き』を強みにまちづくりに足を突っ込み続けてくださいね♡

今年も素晴らしい塾生の皆様に出会えたことに感謝の気持ちでいっぱいです。



●運営委員 長瀬 圭将

皆様、1年間の塾活動お疲れ様でした。

顔を合わせ、計画を練り、探求して成果物にまで仕上げるまであっという間だったのではないのでしょうか。ぜひ皆様の熱をこの先も絶やさず保ち続けていただければと思います。

塾の活動は始まったばかりです！皆様の活動の継続と益々の発展を心より願っております。



●運営委員 森 恭佑

市民活動が活発なまちとは、どんなまちでしょうか。市民活動を経済活動と切り分け、ただの趣味・ボランティアと括ってしまうのはもったいない。今では、中学・高校生が総合的な学習の時間で「探求学習」に取り組んでいます。これはまさに、子どもから大人まで人生における「マイテーマ」を持ちましょう、というメッセージだと感じています。

長崎伝習所で市民活動を盛り上げ、若い人が夢を持ち、大人がワクワクしているまちにしていきたいです。



●運営委員 渡邊 暁生

長崎の魅力発信、課題解決へ、特色あるテーマに沿って1年間、活動された塾の皆様お疲れさまでした。市民と行政による街づくりに力を尽くされたことに改めて敬意を表します。

歴史に埋もれそうな「宝」の掘り起こしや、地域活動への参加を促す取り組みなど、テーマは様々でしたが、いずれも長崎のこれからを明るく照らす成果に違いありません。

伝習所の皆様が、更なる街づくりへ取り組みの裾野を広げていかれることを切に願います。

長崎には、「このまちをもっとよくしたい!」「大好きな長崎のために何かやりたい!」という熱い思いや、「こんなことをやったらいい!」というユニークな発想を持つ市民の方が大勢います。そのような市民の皆さんのエネルギーと自由な発想こそが、魅力的な長崎を創り上げる原動力となります。

長崎伝習所は、そのような熱意とアイデアを持つ人々や、それに共鳴する人々が集まり、協力して活動できる場となります。テーマごとに市民の皆さんが「塾」を設置し、塾生を募集して、塾長を中心に市民と行政が協働で「塾」事業を展開しています。

長崎伝習所の目的

長崎伝習所は、市民と行政が有機的に連携することにより、人材の育成・ネットワークづくりと政策を生み出す活動を行い、地域の活性化と発展に寄与することを目的としています。名称の由来は、幕末期に長崎に設置された「海軍伝習所」や「医学伝習所」などからきているもので、その輝かしい歴史に学ぼうという意味が込められています。

設立からの経緯

長崎伝習所は、昭和 61 年度に人材のネットワークづくりと地域の活性化を目的に、異業種交流の場として、海洋開発、都市デザイン、バイオテクノロジーなどをテーマに「塾」が設置され、しだいに長崎の再生を模索する幅広い活動の場となってきました。

昭和 63 年の「ふるさと創生 1 億円」を基に、平成元年度に「長崎伝習所基金」を創設し、市民と行政が有機的連携を強化することにより、人材の育成と政策を生み出す活動を行い、もって長崎の再生と創造に寄与することを目的とする「長崎伝習所」の活動に充てています。

設立以来、長崎を魅力ある元気なまちにするために、市民と行政が力を合わせて研究活動を行い、これまでに延べ 300 を超える塾が活動を展開し、塾卒業生は延べ 1 万人を超えています。

また、平成 23 年度から令和 4 年度にかけて、市民の皆さんが日本のトップクラスの方と接する機会を設けることにより、視野を広め、長崎の活性化に向けて行動するきっかけとなることを目的に、各界の著名人の方にプロデュースをお願いする、自分新化講座を開催いたしました。令和 6 年度からは、若者向けにリニューアルした特別講座 Me-revo と称し、先進的な取組を行っている方々を講師に招いた講座を開催しています。

● 主な卒業塾の活動状況

・紅塾

…「一般社団法人長崎ウーマンズ・ウォークラリー」としてウォークラリーの開催

・No! ドメスティック・バイオレンス塾

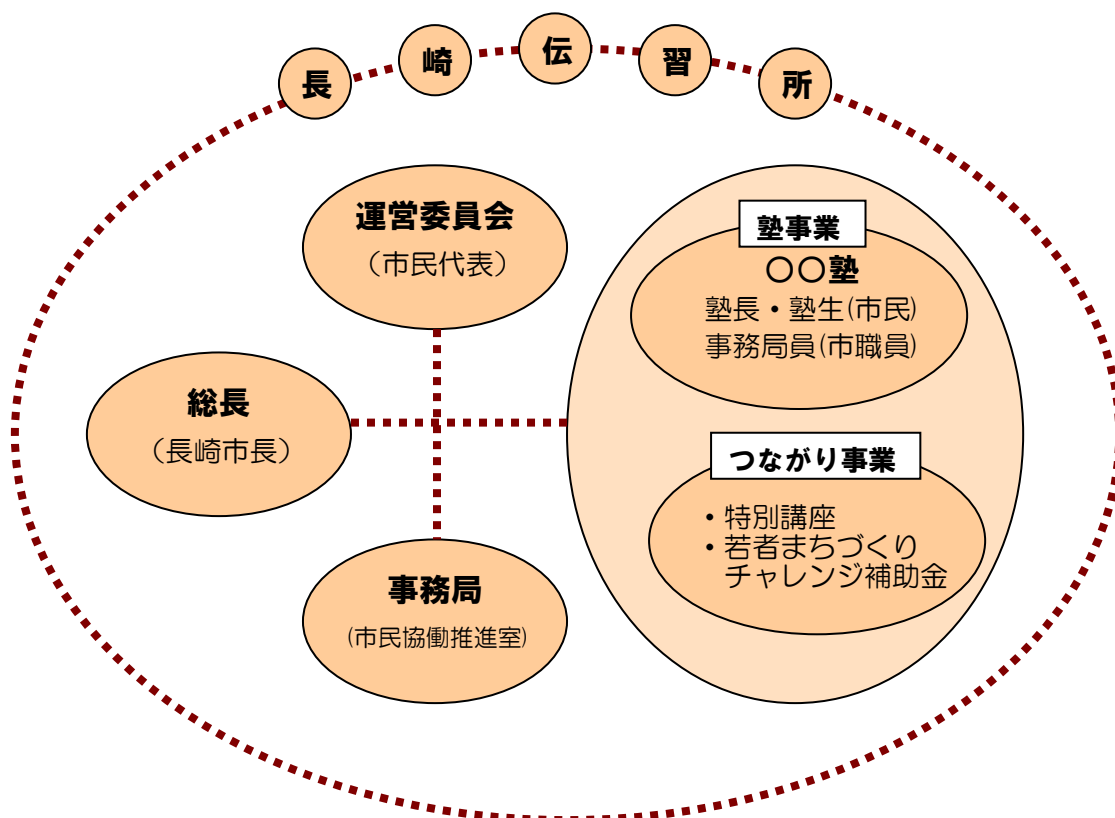
…「NPO 法人 DV 防止ながさき」として、DV 防止啓発、被害者支援等

・伝統工芸塾(銀細工、現川焼、長崎刺繍、長崎の染め、ステンドグラスの 5 塾)

…歴史文化博物館の体験工房で活動

運営体制

塾テーマの選定から塾の運営まで、すべてを市民自らの手で行うのが、長崎伝習所「塾」の特色です。



「塾」とはこんな場所

「塾」といっても、誰かに教えてもらうところではありません。市民の皆さんから長崎のまちづくりにつながる企画や塾長を公募し、運営委員による審査会を経て、「塾」を設置。その趣旨に共感、共鳴する市民の皆さんが集まり、調査研究やイベント、実践活動など様々な活動を展開しながら、魅力的なまちづくりを進めていこうというものです。

- 塾 …………… 市民が主体となって、自主的、自律的に活動する場
- 塾 長 …………… 塾運営の責任者
- 塾 生 …………… 塾のテーマに基づき活動する参加者
- 塾事務局員 …… 塾と行政とのパイプ役になる市職員
- 運営委員会 …… 設置する塾の審査や塾の活動内容等についてのアドバイス等を行う機関





「塾」活動の流れ

11～12月 塾テーマ・塾長 募集



2月上旬 審査会



4月 塾生募集



5月 開所式



10月 中間報告会



3月 長崎伝習所まつり



3月 成果報告書作成



卒業後 フォローアップ補助金



自立して活動する塾

市民の皆さんから「塾」活動企画を募集

塾長候補者が応募用紙に目的、研究・活動内容、対象塾生、塾開催運営方法、成果品内容、連携したい部署、予算などを書いて応募。

運営委員による審査会で新年度活動塾を決定

塾長応募者からのプレゼンテーションで審査により決定。

継続申請(2・3年目)

塾活動は単年度事業が原則ですが、活動を継続する場合、継続申請し、運営委員会の審査を受け、継続を決定。

広く市民に呼びかけ、塾生を募集

塾の趣旨に共鳴、共感し、一緒に活動する塾生を募集。4月下旬に塾生を確定。

塾生が一堂に会し、塾活動をスタート

塾長と塾生の初顔合わせの開所式を開催。開所式後に第1回塾会議を行い、連絡体制や役割分担、定例会の日程や場所等を決め、塾活動開始。

塾の活動状況を運営委員会に報告

塾活動の状況を運営委員会に報告し、以降の活動へのアドバイスを受ける。

各塾の活動の歩み・成果を広くアピール

塾活動の成果を広く市民の皆さんなどに知っていただくために「長崎伝習所まつり」(成果報告会)を開催。

塾活動の成果・提言をまとめた成果報告書を作成

各塾の成果・提言をまとめた成果報告書を作成し、長崎伝習所ホームページ上で公開。

卒業塾の活動



卒業塾の活動支援

伝習所卒業後 2 年間は塾の自立促進のために設けられている「長崎伝習所フォローアップ補助金」の申請が可能。サポートを受けながら、活動を継続し自立を図る。

令和 6 年度 長崎伝習所活動記録

日 時	場 所	内 容
令和 6 年		
4 月 26 日 (金) 18:30～	長崎市役所 2 階 市民利用会議室	第 1 回 塾長・事務局員会議 「塾」の運営、伝習所まつりについて ほか
4 月 26 日 (金)		令和 6 年度 塾生募集締切 新規 1 塾、継続 2 塾（うち東京塾 1 塾）
5 月 21 日 (火) 18:30～	長崎市役所 2 階 多目的スペース	令和 6 年度「塾」開所式
6 月 14 日 (金) 18:30～	長崎市役所 2 階 多目的スペース	第 1 回 Me-revo 「SWITCH to HOPE ー社会の課題をみんなの希望へ変えていくー」 講師：田口 一成氏 (株式会社ボーダレス・ジャパン 代表取締役)
9 月 20 日 (金) 18:30～	長崎市役所 2 階 多目的スペース	第 2 回 Me-revo 「“生きる”を、進化させる。 相互扶助のこれからのかたち」 講師：矢田 明子氏 (株式会社 CNC 代表取締役)
10 月 15 日 (火) 18:30～	長崎市役所 2 階 市民利用会議室	中間報告会 「塾」活動の進捗状況を運営委員会へ報告、交流
11 月 14 日 (金) 18:30～	長崎市役所 2 階 多目的スペース	第 3 回 Me-revo 「6 つの国 4 つの言葉で育って見えた発見と 多様性のお話し」 講師：キリーロバ・ナージャ氏 (株式会社電通 クリエーティブ・ディレクター/絵本作家)
11 月 21 日 (木) 18:30～	長崎市役所 13 階 中会議室	第 1 回 伝習所まつり実行委員会 ・日程、会場、スケジュール、各塾企画、全体イベント

令和 7 年		
1 月 10 日 (金) 18:30～	長崎市役所 13 階 中会議室	第 2 回伝習所まつり実行委員会 ・会場レイアウト、全体イベント、チラシ等
2 月 2 日 (日) 13:00～	長崎市役所 2 階 多目的スペース	令和 7 年度「塾」審査会(審査員:運営委員会) 新規塾 2 塾、継続塾 1 塾の応募 ⇒全て採択
3 月 5 日 (金) 18:30～	長崎市役所 7 階 中会議室兼記者会見室	第 3 回伝習所まつり実行委員会 ・オープニングステージイベント、当日スケジュール
3 月 15 日 (土) 11:30～15:00	ベルナード観光通り	長崎伝習所まつり(成果報告会) オープニング、成果品贈呈、各塾紹介、パネル展示、 各塾イベント開催



開所式①(5/24)



開所式②(5/24)



第 1 回 Me-revo ①(6/14)



第 1 回 Me-revo ②(6/14)



第2回 Me-revo ①(9/20)



第2回 Me-revo ②(9/20)



第3回 Me-revo ①(11/14)



第3回 Me-revo ②(11/14)



伝習所まつり①(3/15)



伝習所まつり②(3/15)



伝習所まつり③(3/15)



伝習所まつり④(3/15)



塾 研 究 成 果 報 告

「はじめて」の地域活動 やってみよう塾





塾長 林田 慎一

■ 塾長コメント ■

この塾の活動をする中で、これまでの活動では出会えなかった仲間と出会えました。長崎市の事業としての活動は一度区切りをつけますが、この塾を通じて出来たつながりを活かして、これからも「長崎を盛り上げたいけど何から始めてみたら良いかわからない」という人のきっかけになればと思います！

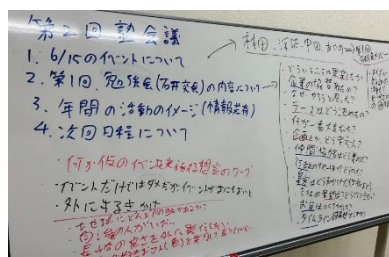
■ 塾の目的 ■

地域でなにか活動してみたいけど、何から初めていいのかわからないといった方を対象とし、同じ思いを持つ仲間とともに地域活動について学びながら、活動をゼロから企画して実践していきます。塾生それぞれが地域活動を始めるきっかけとなることを目指しました。

■ 塾の研究・活動内容 ■

①塾会議

「はじめて」地域活動をやってみようという人が集まった塾のため、「何をするか」「どう決めるか」という2つの課題がありました。塾長が塾生に教えるのではなく、「共に創っていく」という仕組みも会議の中で合意形成を図っていききました。



②事例研究（視察&講演会）

何から始めて良いのかわからない。なので、まずは地域活動の先輩の話を聞きに行こう！ということで、伝習所の運営委員でもある、阿部美和子先生のイベントへの視察とともに、講演をお願いしました。活動初期の段階での視察は、塾生同士の一体感を高める上でも、非常に効果的でした。何か地域活動を始めてみようという方は、早い段階での視察をオススメで



③勉強会（ワークショップ）の開催

塾会議で決めた「〇〇で長崎を盛り上げたい」というテーマでワークショップを開きました。後述の「KPT シート」を使い、できること・課題・挑戦してみたいことを、個人ワークとグループワークを通して、まとめました。一般参加の方も巻き込み、「自分だけでは得られない」考えやアイデアにたどり着く方法を学びました。



④地域課題のヒアリング

当初、長崎全体を盛り上げたい！という思いでアイデア出しを行っていましたが、「地域活動」という趣旨を再考し、特定の地域に絞り課題の下記2か所のヒアリングを実施しました。

長崎市みなと青壮年部深堀は、「深堀恵比寿力キ祭りに対する広報」が課題。伊王島漁協・伊王島朝市会は、観光客と漁業を結びつける仕組みが課題との意見を聞くことができた。

⑤勉強会（スキルアップ）の実施

④であげた課題解決のため、広報動画作成のスキルアップを目的に、長崎大学の北村助教を招き、勉強会を開催した。



⑥地域とのコラボ事業の実施

④で出た課題を解決するため。そして、⑤で得たスキルを実践で発揮するため、深堀と伊王島でコラボ事業を実施した。

・「深堀恵比寿力キ祭り」とのコラボ事業

当日の出店者の取材動画を編集し、会場で放映することで、回遊を促した。

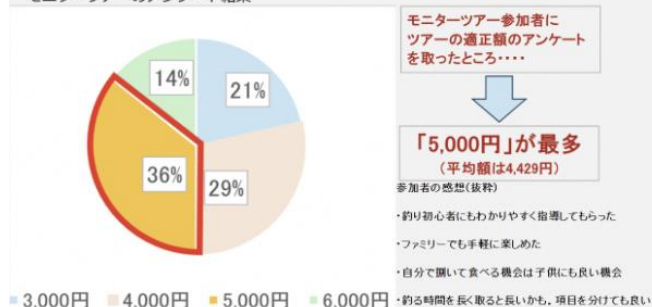


（↑作成した広報動画）

・「伊王島モニターツアー」事業

漁業を楽しんでもらうため、魚を釣り、開いて干物を作るモニターツアーを実施し、アンケート結果にまとめた。

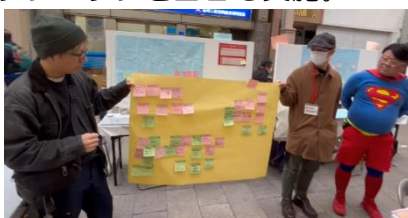
モニターツアーのアンケート結果



・伝習所まつりでワークショップを実施

塾で実施したワークショップを当日も実施。

一般参加の方にも地域活動を考えるきっかけを作りました。



■ 塾活動の成果 ■

本塾の趣旨でもある、地域活動に興味はあるけれど、一步を踏み出せない人の「0→1」のきっかけにしてもらうためには、歩んだ軌跡をまとめたマニュアルにして、多くの人に見てもらうことがよいのでは。という結論に至り、「はじめて」の地域活動の始め方というマニュアルを作成しました。



マニュアルはQRコードからダウンロードできます

本マニュアル抜粋は下記のとおりです。

・本塾の軌跡を7STEPに整理

★地域活動の7STEP

- ①仲間集め（同じ方向性を向ける人の集め方）
- ②合意形成（どう進めるか）
- ③事例研究（過去の事例をどう学ぶか）
- ④意思決定（やりたい事をどう決めるか）
- ⑤ヒアリング（地域の課題をどう把握するか）
- ⑥インプット（スキルをどう得るか）
- ⑦アウトプット（どう実践するか）

■ 本塾からの提言 ■

1. 地域活動へのハードルを下げしてほしい

地域活動のプレイヤーが固定化しているように感じます。新たなプレイヤーが生まれるため、「長崎のために何かしたい」その思いを共有する場だけであると良いと思います。

2. 地域活動は好きなことで実践してほしい

地域活動は、私財と時間を費やすので、「地域のため」の前に「好きなこと」で無いと持たないと思います。サポート側も、その点を理解することで、地域活動が持続可能なものになると考えます。

「はじめて」の地域活動やってみよう塾 活動記録

日 時	場 所	内 容
令和 6 年		
5 月 21 日 (火)	長崎市役所	第 1 回塾会議。自己紹介と今後の流れ等を決定
6 月 12 日 (水)	長崎市民会館	第 2 回塾会議。第 1 回勉強会や年間活動予定を決定
6 月 15 日 (土)	にこっと	視察。第 1 回勉強会に向けた取材を行ない、地域活動を実践している人や参加者の想いに触れた。
6 月～7 月	オンライン	第 1 回勉強会のワークショップ担当で打合せ。
7 月 24 日 (水)	長崎市立図書館	第 3 回勉強会。第 1 回勉強会前の打ち合わせ。アジェンダ案、ワークショップのやり方などを決定。
8 月 4 日 (日)	長崎市民会館	第 1 回勉強会。阿部美和子先生による講演と「〇〇で長崎を盛り上げたい」というテーマでワークショップを実施した。
8 月 26 日 (月)	長崎市民会館	第 4 回塾会議。第 1 回勉強会で出てきたやりたいことをどう実践するかを話し合った。
11 月 11 日 (月)	長崎市民会館	第 5 回塾会議。伝習所の塾として出来ること・出来ないことの説明。制限の範囲で何が出来るか決めた。
11 月 20 日 (水)	長崎市民会館	第 6 回塾会議。商店街や漁協など、連携して地域のために活動できる先を見つけた。
11 月～1 月	各所	思案橋商店街・西彼南部漁協・伊王島朝市会・みなと青壮年部深堀に課題と連携可能性をヒアリング。
令和 7 年		
1 月 8 日 (火)	長崎市民会館	第 7 回塾会議。商店街や漁港関係者との課題ヒアリング結果を共有。第 2 回勉強会で広報動画作成方法の勉強会を開くことを決定。
1 月 22 日 (火)	長崎市民会館	第 8 回塾会議。第 2 回勉強会と深堀・伊王島でのアウトプットと伝習所まつりの内容について打合せ。
1 月 23 日 (水)	長崎大学	長崎大学情報データ科学部の北村助教へ訪問。第 2 回勉強会の内容について相談と打合せ。
1 月 26 日 (日)	伊王島総合開発センター	第 2 回勉強会。長崎大学の北村助教指導のもと、地域の広報動画の作成方法を学ぶ。
2 月 19 日 (水)	長崎市民会館	第 9 回塾会議。深堀・伊王島との連携事業と伝習所まつりについて打合せ。
2 月 22 日 (土)	深堀漁港・沖之島漁港	午前は深堀恵比寿カキ祭りの取材と広報動画の作成と上映。午後は伊王島モニターツアーを実施。
3 月 5 日 (水)	オンライン	第 10 回塾会議。伝習所まつりと成果物の準備の役割分担を行った。
3 月 12 日 (水)	ランタナ	伝習所まつり準備（資料確認・印刷）
3 月 14 日 (金)	ランタナ	伝習所まつり準備（印刷）
3 月 15 日 (土)	ベルナード観光通り	伝習所まつり。成果報告とワークショップを実施。

塾生の感想（塾会議について）

伝習所の会議は市役所周辺にて定期的に関催されていました。参加者達は様々な意味で異なる立場を持つメンバーながらも、長崎を良くするための一歩を踏み出したいという思いは共通しています。地域活動の実例の学習や各々の視点からの発想の交換は実に視野の広がる良き学びの場でもありました。

この会議で交換され培われた知識・知恵や絆が皆の、そして長崎の幸福に繋がることを願い、次の一歩を踏み出したいと思います。

塾生の感想（第1回勉強会について）

先生の講演で印象に残ったのは「5メートルを楽しく」です。長崎を盛り上げるには何をしたらいいのか、と考えると大きすぎてなかなか動けないけど、先生は身の回り5メートルを楽しくすることから始めると仰っていました。実際に先生は講話を聞いていた私たちを引き込み、楽しい会になりました。お話が上手で懂れます。難しく考えず、まず身の回りを少しずつ開拓し、できることを見つけ、長崎を盛り上げる地域活動に繋がるよう努力していきたいです。

塾生の感想（ワークショップについて）

やりたいことを付箋に貼って可視化することで具体的に何をしたいのか、やるのがはっきりしてきた。グループでやることで他の人の考えも聞け、自分にはない発想で長崎を盛り上げる為の新たなアプローチがあるのだと気づけた。結果、数珠繋ぎのように色々なアイデアが出て、ワクワクする時間となった。各グループの発表も含めて、長崎を盛り上げたい人の熱量を感じ、私自身も何をやりたいのか見えてきた。

塾生の感想（第2回勉強会について）

北村助教に動画作成の事を教えて頂き、自分で実際に動画を作ってみました。作成時間は短い時間でしたが、なんとか形になるものだと思いました。「何をアピールしたいか」をまずはっきりさせて、材料を集め、動画の仕上げのイメージを明確にする事が大事だという事がこの勉強会での大きな気づきでした。

塾生の感想（ワークショップについて）

「深堀恵比寿カキ祭」とのコラボでしたが、当塾では塾長のつながりを使い、事前に SNS での露出や地元ケーブルテレビの取材を行っていただきカキ祭りの事前 PR を行った。前回学んだ動画作成技術を駆使して、当日の様子を PR 動画としてまとめ、各所で PR を行った。このカキ祭りも年々ステーキホルダーを増やし、規模を拡大しているが、そんな中でも、この塾がこれまで培ったつながりや技術で PR に貢献出来たと思う。私も、塾の仲間のように、つながりや出来ることを少しずつ増やし、楽しみ続けることも地域活動に繋がるのではないかと考えている。

塾生の感想（伊王島モニターツアーについて）

「自分たちでおいしい魚を釣って、さばいて干して焼いて食べる」体験モニターツアーを実施しました。家族で参加された小さなお子さんも安全面に注意しながら獲物（あらかぶ）をゲット。参加者からは「釣り楽しか〜！！」の声も上がりました。その後、加工場に釣った魚を持っていき、不慣れな魚さばきにチャレンジ。乾燥機で1時間待ち。次の日に食べましたが、自分で苦労して釣った魚の味は格別でした。

「はじめて」の地域活動やってみよう塾

塾長	林田 慎一				
1	深堀 陽水	21		41	
2	石橋 朋矩	22		42	
3	橋本 一郎	23		43	
4	並木 あおい	24		44	
5	中田 貴之	25		45	
6	嘉松 可奈子	26		46	
7	谷川 哲章	27		47	
8	本田 絢乃	28		48	
9	一ノ瀬 良知	29		49	
10	前田 洋子	30		50	
11	竹内 裕二	31		51	
12		32		52	
13		33		53	
14		34		54	
15		35		55	
16		36		56	
17		37		57	
18		38		58	
19		39		59	
20		40		事務局員	市民協働推進室 川口 育美

ながさき山城・砦 探検魅力発信塾





塾長 山喜 邦次

■ 塾長コメント ■

まずは 2 年目も「山城」の活動を行わせて頂き感謝申し上げます。今年度は新たな塾生も入り、非常に意欲的に活動を行う事が出来たと感じています。来年度もまたさらにパワーアップして活動を継続していきたいと考えておりますので、何卒よろしくお願い致します。

1 年間山城についての活動を行う中で、まだまだ地域に眠っている遺構や伝承がたくさん残っている事を実感しました。地域にとってそれらは大切な遺産であり、また継承していくべきものであるものと考えます。

来年度は地域の方々とより連携を取りながら、地域の歴史の探索と継承について取り組んでいきたいと思っております。

■ 塾の目的 ■

長崎県内の「歴史遺産」とも言える「中近世山城・砦」跡は現在分かっているだけでも約 600 か所以上、長崎市内だけでも約 50 か所も存在します。しかしそのほとんどは地域でも知られていないことが多く、忘れ去られ埋もれているのがほとんどの現状であると言えます。

長崎市内では、「鳥山城(西浦上地区)」、

「狭田城(江平地区)」、「武功山尾根突端砦(蛍茶屋近く)」、「桜馬場城(片淵)」、「日見城(日見地区)」、「茂木秋葉山砦(茂木地区)」、「俵石城(深堀町)」、「高浜城(高浜町)」、「福田城(福田本町)」等々の山城遺構が存在し、400 年以上も前の姿を今も残しています。これらの山城はかつてその地域に存在した領主らの活動を示すものでもあります。

このように「埋もれた」歴史遺産とも言える山城にスポットを当てて探索、周知活動を行い、「山城」を新たな地域の魅力、まちあるき・観光資源の一つとすることを目的として塾活動を行っております。

■ 塾の研究・活動内容 ■

当塾では①山城や周辺地区の探索、②歴史についての文献調査・講師による研修会、③冊子、パンフレット、亚克力キーホルダーの作成等の活動を行いました。

①山城や周辺地区の探索

今年度は東長崎地区、南長崎地区、福田・柿泊・手熊地区、神浦地区、琴海地区、長崎市中心部「六丁町跡」の山城及び遺構を探索しました。

東長崎地区では「古賀地区まちづくり協議会」の渡邊一則様から地域の歴史についてお話をお伺いし、「日見城」「古賀館」「古賀城」「上戸石城」「満城」の探索を行いました。福田・柿泊・手熊地区では「NPO 法人 21 世紀夢倶楽部」鈴木律男様から実際に現地を案内して頂き、「宮尾城」「福田城」「キリシタン墓」等の探索を行いました。南長崎地区探索では「長崎石鍋記録会」東貴之様と一緒に現地を探索し、「高浜城」や深堀地区の探索、「俵石城」等の探索を行いました。

また、琴海地区では昨年に引き続き「形上地区まちづくり協議会」の方々と一緒に「舞

岳城」の探索会を行いました。



②歴史についての文献調査・講師による研修会

梅雨の時期や夏季は野外での活動が難しいため、座学を行いました。長崎市の山城については情報が少なく、「どじょう会」様の調査報告書をはじめ、郷土誌等様々な情報を集めました。また林隆弘先生からは「長崎市の山城について」山城の基本的な事柄から教えて頂き、とても貴重な研修会となりました。



③冊子、パンフレット、アクリルキーホルダーの作成

今年度行った探索活動をまとめた冊子、パンフレットの作成を行いました。当時の様子をわかりやすく示すために想像再現イラストを作成しています。

アクリルキーホルダーは、昨年度が長崎領主「長崎甚左衛門純景」であったため、今年度は深堀領主「深堀純賢」をキャラクターとして使用して作成しました。

■ 塾活動の成果 ■

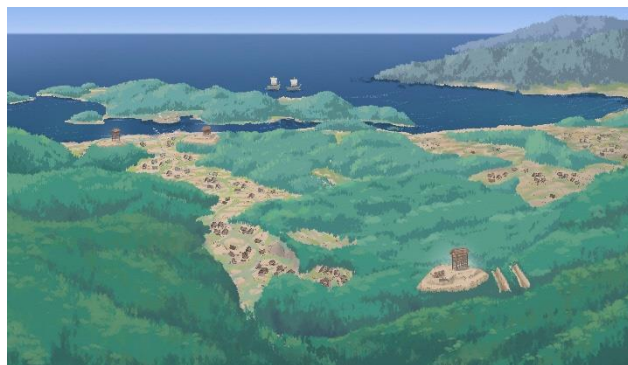
今年度も多くの地区と山城を探索することができました。また塾生の方々が非常に積極

的に参加され、一緒に山城の魅力を楽しむことができたのではないかと思います。

伝習所まつりではこれら山城の探索を通じてその魅力を長崎市内の方々に発信することができました。住んでいる地域の魅力を別の視点から再発見するきっかけになればと考えております。

山城の想像再現図については、より当時の様子を想像しやすいようにある程度俯瞰図として作成しました。現在ではなかなか予想できない当時の姿を知ることができますので、是非冊子の方をご覧ください。

↓戸石地区想像再現図



↓永禄8年(1565年)福田浦の戦い



長崎市内の山城遺構は知名度が低く、埋もれた歴史となりつつあります。しかし山城遺構は400年以上も前の当時の様子をそのまま残している貴重な遺構であり、実際に自分の目と足で確かめることができる大変ロマンのある遺構でもあります。地区の歴史遺構の一つとして是非、周知・保存・継承を行い、まちづくりの資源の一つとして残していくことができればと考えています。

ながさき山城・砦 探検魅力発信塾 活動記録

日 時	場 所	内 容
令和 6 年		
5 月 22 日 (水)	長崎市立図書館	第 1 回塾会議。
6 月 1 日 (土)	市民会館小会議室	「山城についての紹介」。
6 月 9 日 (日)	桜馬場城周辺	桜馬場城周辺探索会。
6 月 15 日 (土)	市民会館小会議室	探索報告、今後の探索スケジュールについて。
7 月 6 日 (土)	林隆弘先生 講演会	鳴滝高校教諭 林隆弘先生を招いて山城について講演会。
7 月 20 日 (土)	市民会館小会議室	「松浦党」についての勉強会。探索について打ち合わせ。
7 月 28 日 (日)	「県庁跡地～勝山町」	「県庁跡地～勝山町」探索会。
8 月 2 日 (金)	三川町周辺	「鳥山城」が位置する三川町周辺の遺構を探索。
8 月 3 日 (土)	長崎市立図書館	日見城についての情報収集。
8 月 17 日 (土)	市民会館小会議室	探索振り返り。
9 月 7 日 (土)	市民会館小会議室	福田城関連資料について勉強
9 月 8 日 (日)	日見城	日見城探索会
9 月 28 日 (土)	アマランス会議室	探索振り返り。福田、手熊、柿泊地区探索打ち合わせ。
9 月 29 日 (日)	福田地区	福田城と福田地区の探索会。
10 月 12 日 (土)	市民会館小会議室	探索振り返り。
10 月 13 日 (日)	手熊、柿泊地区	宮尾城、館山、キリシタン墓碑等探索。
10 月 26 日 (土)	市民会館小会議室	探索振り返り。
11 月 2 日 (土)	市民会館小会議室	東長崎地区の歴史について勉強会
11 月 10 日 (日)	神浦地区	神浦城、大城、田中城等探索会。
11 月 16 日 (土)	鷹ノ巣石鍋製作所跡	鷹ノ巣石鍋製作所跡 探索会。
11 月 16 日 (土)	市立図書館会議室	探索振り返り。
11 月 24 日 (日)	戸石地区	上戸石城、満城、戸石の六地藏塔等探索会。
12 月 7 日 (土)	市民会館小会議室	探索報告。南長崎地区探索打ち合わせ。

日 時	場 所	内 容
12 月 8 日(日)	深堀地区、高浜城	深堀地区、高浜城探索会。
12 月 15 日(日)	古賀地区	古賀地区探索会。
12 月 22 日(日)	俵石城	俵石城探索会。
令和 7 年		
1 月 12 日(日)	サステナプラザ	エコ講座、伝習所まつり・来年度の活動について。
1 月 19 日(日)	舞岳城(形上町)	舞岳城探索会。
1 月 25 日(土)	市民会館小会議室	伝習所まつり打ち合わせ。
1 月 26 日(日)	サステナプラザ	伝習所まつり打ち合わせ。
2 月 1 日(土)	市民会館会議室	伝習所まつり打ち合わせ。
2 月 16 日(日)	サステナプラザ及び zoom	伝習所まつり打ち合わせ。
3 月 1 日(土)	市民会館小会議室	伝習所まつり打ち合わせ。
3 月 15 日(土)	ベルナード観光通り	伝習所まつり

長崎市内だけでも、約50城もの山城が築かれています。
その多くは築城主、年代が不明ですが、長崎開港以前からの歴史を雄弁に語るものでもあります。
またその多くは海岸付近に築かれており、海上交易・交通が盛んであった事を示唆するものとなっています。

※今年度探索した山城は赤文字で示しています

The map shows Echigo Prefecture with red dots indicating explored castles. Lines connect these dots to callout boxes containing their names. The regions are labeled as follows:

- 外海地区**: 神湊城、大城、田中城
- 越前地区**: 越前城、比叡城、小崎城、城ノ山城、村松古城、寺山城
- 西通上地区**: 鳥山城、城の岳
- 津上・江平地区**: 城の甲斐、鉄田城
- 片岡・境達地区**: 浪山城、坂馬城、武功山荘
- 連長地区**: 雲山荘、矢上焼山城、津屋城、古賀城、矢上城、城里山、矢上城、日蓮城、戸石城、上戸石城、津城、有馬氏館、西餅氏館
- 茂木地区**: 茂木秋葉山荘
- 戸町地区**: 水の本郷、ツク尾城、本木城、魚屋城
- 深根・高浜野島地区**: 深根陣屋、依石城、高浜城、城山、城ノ内城
- 式見・堀田・地泊地区**: 相川屋敷、三根の館、舞兵衛、手磨館、宮尾城、鹿山、古城、丸木庵、堀田城
- 城山地区**: 城山城、志賀城
- 津波津**: 津波津
- 長崎市**: 長崎市
- 諫早市**: 諫早市

- 3 -

長崎には長崎開港以前からも面白い歴史がたくさんあります。山歩き好き、歴史好き、長崎好きなメンバーであちこち探検、山城を巡り歩き、中世以前の長崎の歴史を深掘りしています！



山城(やまじろ)とは、険阻な山の頂上部や山麓部に築かれた城の一種です。土を掘って「空堀」としたり堤防を築いて「土塁」としたり、敵の侵入を阻むための仕掛けを現在でも確認する事ができます。



「お城」と言うと、立派な天守閣や櫓があるようなものを想像するかもしれませんが、「山城」の多くは土や石を使って防御機能を持たせた「要害」のようなイメージです。実際に城主が居住している場合もありましたが、その多くは合戦の際砦として用いられたり、領地の境界を見張る等の役割を担っていました。

山城には土地所有者の方がおられます。ゴミのポイ捨てや不法行為等、所有者の方の迷惑となる行動は絶対に止めてください。また山城については危険な場所も多いため、安全面については十分に配慮するようによろしくお願い致します。

※事故等の責任は負いかねます。

古くは鎌倉末期から記録が見える「矢上氏」、南北朝時代の「空閑(こが)氏」といった、現在でも地名に残る領主が割拠していたとされる。長崎市内の中でも山城跡が密集している地域であり、また有力者の存在を示す石塔類の数も多い。



日見城は界町に位置する山城であり、西側は日見峠、東側は橘湾側を見渡す事ができる(写真①)。長崎市街地及び矢上方面からの道が交わる場所に位置しており、また海に面していることから陸海交通の要衝であった事が窺える。

本丸跡は細長い山頂部にあり、その南西部には敵の侵入を阻む「二重堀切」(写真②)堀切を連続して設けたものと土塁があ(写真③)。また城郭の海側には守備兵が待機する「帯曲輪」を設けており、襲来に備えている。

戦国時代末期、深堀領主深堀純賢は長崎領主の長崎基左衛門純景をしばしば攻撃した。日見城には両者の合戦の言い伝えが残っており、特に日見城上部の「高城山」では激戦に倒れた兵士の塚が建てられていたとの事。



②戸石の六地藏塔

長崎市戸石町には「六地藏塔」と呼ばれる石塔が2基残っている。6体の地藏が一つの石塔に刻まれており、「佐賀型」と言われる。室町時代中期以降江戸時代前期にかけて流行したものであり、長崎県内でも諫早市の小野、小長井や松浦市等にてみられる。六地藏塔付近では宝篋印塔や五輪塔の一部も残っている。



③古賀城 ④古賀館

古賀城は現在の和仁会病院がある山に築かれていた。登ってみると意外に山頂部が広く、戦国期には有馬氏の陣地がおかれていたと伝えられている。和仁会病院が建設される前は、投石用の小石や城の抜け穴も見つかったとのこと。古い地名にも、「別当」「城ん迫」「城ん首」「籠」と残っている。

古賀館は現在のつつじが丘西部の先端に位置する。古い地名にも「館」と残っており、また南北朝期には在地領主として「空閑氏(古賀氏)」が存在した。当時古賀氏の妻(豊島氏)は戸石に領土を持っていたらしく、戸石から古賀へ抜ける途中の中里地区を広く見渡せる場所に古賀館は位置する。



⑤福瑞寺

キリスト教が伝播した1570年代、古賀は有馬氏の領地であったとされ、積極的にキリスト教の布教が行われた。しかし慶長17年(1612年)幕府の禁教令後、キリシタンは根絶に功績のあった僧正哲を賞して本寺が寛永3年(1626年)に建立された。境内には花十字紋入りのキリシタン墓の他、緑泥片岩製の石塔が残っている。

また古賀小学校には大量の石塔残欠片が保管されている。



- 5 -

南長崎地区

長崎港より長崎市南部を見る



現在の長崎市南部には平安時代より開発領主であった「戸町氏」等が地頭として存在していた。しかし建長7年(1255年)、鎌倉幕府から地頭職を改易され、代わりに上総国御家人深堀五郎能仲が地頭職として任ぜられた。長崎市南部には深堀氏一族による堅固な城郭をはじめ、戸町氏や台場跡など多くの遺構が残存している。そのほとんどは海を意識して築かれている。

①水本城

水本城は国分町〜戸町1丁目に位置しており、現在はマンションが建っている。長崎港へ張り出す地形であるために、湾を出入りする船の往來を見張ることが容易である。そのため、長崎港が重要性を増した戦国末期の城郭である印象を受ける。マンションが建つ前の地形は現在とは異なり紡錘形であったようで、山頂部には水子に祀った社があったという。



②ツク尾城

ツク尾城は水本城(大久保山)の尾根筋上に位置しており、数段の曲輪部が設けられた比較的小規模な砦跡である。水本城とセットで築かれているために城主と時期は同じである可能性が高いと思われる。ツク尾城からも海側を見渡す事は

- 7 -



⑥上戸石城

上戸石城は行仙岳の尾根先端部に位置しており、付近には「城仙」「城」「城ノ谷」「陣ノ内」といった城郭に関連した地名が残っている。谷の奥に位置しているが、ちょうど戸石から古賀へ抜ける途中に位置していることから往來の監視の役割を持っていた印象を受けた。

城郭の山側には険しい二重堀切と石積を設けているが、城郭自体の面積は非常に狭い。

南北朝時代(1334〜92)、九州の武士たちも北朝方、南朝方と分かれて戦った。戸石の地は矢上空間民部三郎入道(豊島氏)の所領であったが、南朝方についたために所領を没収された。かわりに深堀高派弥五郎政綱にあてがわれたが、豊島女はこの打ち返しに対して城郭を構えて抵抗したとある。

⑦満城

満城は戸石港すぐ北側に位置している。比較的高い南北に長く伸びた独立丘陵部の頂上に主郭部があり、南側を堀切で防御している。「どじょう会」様の資料によると、現在の戸石郵便局側が大手口、南側満城墓地の先端付近が見張り所のあった地点であろうとの事。現地では「海から敵が来た」というお話も残っている。



- 6 -

できるが、水本城、水本城よりも視界が悪いために、水本城の北東側及び山手の方を警戒しているように感じられた。またツク尾城の対面側には戸町氏が城主であったとされる鳥屋城が位置している。



③水本城



女神大橋より水本城(大久保山)を望む

水本城は現在の久保山の山頂部に位置していたとされる。平坦部があるものの残念ながら遺構らしきものはまだ発見できていない。山頂部は木々繁茂のために視界不良であるが、中腹からは長崎港を広く見渡す事ができる。さらに戦国期に長崎氏と敵対した深堀氏側の動きも監視することができるともいえる。時期は不明であるが城主は戸町氏であったとされている。水本城の周囲には「ツク尾城」「鳥屋城」「水本城」が位置しており、在地領主であった戸町氏との関連が窺える。

④魚見岳台場跡

長崎台場は、江戸時代に中国・オランダに開かれていた長崎港を警備するための施設である。寛永18年(1641)、港口に西泊・戸町両番所が置かれ石火矢台が設けられた。承応3年(1654)には港口の7か所に築造され、これらは、のちに増築された台場に対して「古台場(または在来台場)」と呼ばれる。次いで、文化5年(1808)に長崎港内においてフェートン号事件が発生し、改めて長崎警備の強化が図られ、同年5か所に「新台場」が築かれ、続いて文化7年(1810)には4か所に「増台場」が築かれる。これらの古台場から増台場までは幕府主導により築造された「公儀御台場」である。また、幕末になり再び外国船の出没が頻繁になると、長崎港警備の強化が図られ、長崎警備担当の佐賀藩は、長崎港外の佐賀藩領神ノ島や伊王島などに新たに台場を築いた。長崎台場は、記録上23か所が確認されており、このうち、次の3か所が国史跡となっている(長崎市HPより)。



一ノ台場、二ノ台場、三ノ台場が設けられており、見事な石垣が残っている。一ノ台場には弾薬を保管する「御石蔵」が残っており、一見してコンクリートの建物かと思ってしまうほどに精巧な作りとなっている。



- 8 -

⑤ 倭石城



倭石城はフレスが深堀裏手の城山頂上部に位置している。城主は深堀氏であり、室町時代に築城されたものとされる。深堀氏はもともと上総国の御家人であったが、建長7

年(1255年)肥前国戸八浦(現在の長崎市街地南部から野母半島西部にかけての地域)の地頭職となって当地を支配した。深堀氏は絶えず周辺領主の長崎氏や戸町氏らと対立抗争を起しており、戦国時代には「深堀純賢」が「長崎甚左衛門純景」に度々攻撃をしかけている。

倭石城は東西約300m、南北最大幅約100mと広大な広場を有する城郭であり、周囲には高さ約1.5mの石壁が築かれている。石壁の内側には空堀が築かれており、今でも陶器片や石臼がゴロゴロと転がっている。石壁にはところどころ入口部が設けられていたり、石壁の内側から外敵を射撃するための窪みがみられる。城郭北東部の石壁は一層高く積み重ねられており、櫓台のような高まりとなっている。さらに城郭南西部には複数の空堀が並んで「畝状空堀群」が設けられており、緩い斜面からの侵入を警戒している。

⑥ 深堀陣屋跡

深堀氏の館跡であったと伝わる。深堀氏はもともと上総国深堀(千葉県)の出身である。建長7年(1255年)に深堀能仲が当地の地頭となり治めた。周辺には「御屋敷」や「馬場」等の地名が残っている。



⑦ 菩提寺

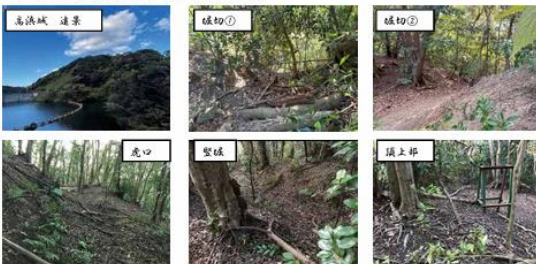
倭石城の山麓部にあり、深堀氏代々の菩提寺である。佐賀藩家老深堀鍋島家代の墓や、深堀義士らの墓がある。鍋島家の墓の奥に「深堀純賢」の物と伝わる石塔が祀られている。

- 9 -

⑧ 高浜城

高浜ダムのすぐ隣に位置しており、山麓からは真っ直ぐに軍艦島を眺める事ができる。「大村郷村記」には「その昔三浦公の築いた城跡として石垣が所々に残る。また大堀・小堀という地名が残る」とあるとの事。三浦公とは深堀氏の事で、城主は深堀高浜氏であったと考えられる。南北朝時代、北朝方についた「(深堀)高浜弥五郎政綱」は鎮西管領一色範氏より、戸石村田八町等を賜ったが、その土地は矢上空閑民部三郎入道妻の豊島氏のものであった。そのため矢上空閑氏はその打ち渡しに強く抵抗した。

高浜城は南側の尾根筋を三重の堀切と土塁で、北側を畝状空堀(深堀を複数構築して攻撃網の移動を阻む)と虎口を設けて防壁している。頂上部や各々の曲輪は狭いために居住的な役割よりも、領土の境界を見張る強力な警備であったものと思われる。築城期は戦国時代かと思われる。



天正朝頃の勢力分布図



元亀2年の長崎開港以後、長崎港を巡って周辺領主は様々な動きを見せていた。深堀領主の「深堀純賢」は度々長崎領主「長崎甚左衛門純景」や「長崎六丁町」を攻撃する。長崎甚左衛門純景は城下を焼き払われるなど苦境に立ちながらも、大村純忠や神浦、福田、三重地区の領主らの援兵により撃退する。謙早、高来、島原半島北部の領主であった西郷純亮は深堀純賢らとともに大村純忠や長崎氏、古賀氏らを攻撃した。その後天正末期になると佐賀の「龍造寺隆信」の勢力が強大となり、大村氏、西郷氏をはじめほとんどの領主はその傘下に入った。

- 10 -

福田・柿泊・手熊地区

永禄8年(1565年)福田浦の戦い



福田・柿泊・手熊地区の歴史は非常に古く、平安時代の治承4年(1180年)に「平包守」という人物が彼杵荘生手・手隈両村(現在の手熊地区か)の領主として任ぜられている。その後平包守の子孫は「福田氏」と名乗り、南北朝～戦国期にかけて当地区にて活躍した。

① 福田城

福田氏の居城とされ、築城期は天正期(1573～1592)かと思われる。「大村郷村記」には「此の城水ノ手なし築く時代不知」とある。非常にシンプルな形状の城館であり、頂上部に櫓台があり、主曲輪に稲荷神社が鎮座している。頂上から山麓へ2つの尾根筋が伸びており、先端部には出丸がある。南東方面の出丸は「だんとんさま」とも呼ばれ、古い墓が祀られている。

言い伝えによると、この付近は源平の昔、戦いのあった場所で幾多の戦死者があり、これを葬ったという。現在の山先端は古墳であったとされ、無縁塔が祀られている。「だんとんさま」の墓の下には温石で造った石棺が露出しているとの事。北東側の出丸については墓から探索する事ができ、石積を伴う段差構造が多数見られる。大手門付近には昔、堀切の跡もあったとの事だが現在は不明(稲荷神社入口部?)。頂上部には櫓台が設けられており、案内板が設置されている。

永禄年間(1558～1570年)、新たに南蛮貿易港となった福田港を「平戸松浦氏」の松浦隆信らが襲うが、福田領主「福田左京亮兼次」と宣教師らはそれらの上陸を防いだ(福田浦の戦い)。



- 11 -

② 福田大番所跡

福田大番所は福田城のあった山の麓、福田港に臨んだ一角に設けられていた近世大村藩の番所であった。江戸幕府は異国船の来航とそれに伴う外国人宣教師の入国を厳しく取り締まる必要性から、大村藩に対しても、その外海に面する外海筋に対して番所を設けて備えるように命じた。寛永13年(1636)、幕府の命を受けた大村藩主大村純信は、大村領戸町、福田、三重、神浦、瀬戸、中浦、面高の7か所に番所を設置させた。このうち福田は、特に長崎に近く重要な地であるとの理由から、5年後の同18年にはこれを拡充して大番所とし、他を小番所として区別した。

なお「大村郷村記」によれば、それより早く、戦国時代の元亀年間(1570～1573)にはすでに大村氏はこの地に番所を設けていたという。琴舞舞岳城の城主の子孫であるという「相川藤左衛門」が一時期大番所を警備していた。



③ 丸木館跡

築城年代は定かではないが福田氏の館とされており、永禄8年(1565)横瀬浦が壊滅したのは南蛮貿易の拠点となり、元亀元年(1570)頃に長崎港が開港して南蛮貿易の拠点が移るまで繁栄した。現在は密集した宅地になっており遺構は残存しないが、一部道路に面して「石積跡」とされている一部が残っている。付近に井戸がある。

港町風情があり、茂木と雰囲気似る。永禄8年(1565)福田開港の年、貿易の利権を巡り平戸松浦氏の松浦隆信が兵船を派遣して港を襲おうとして失敗したが、福田氏の活躍もあったものと思われる。また、大村純忠は娘の1人が福田氏の妻となっているため、純忠が福田氏をいかに重視していたかがよくわかる。



④ 邪宗門頭

天満宮下の畑地は古寺の跡で、大正5年頃の県道道路工事前には橋の老樹があり、ここに寺の門があったのを土地の人は「ジャッシュモン」とか「ジャッシュウモンガシラ」と呼んでいたという。邪宗門頭とはキリシタン宗門のことで、又の名を大音寺跡ともいわれている。

⑤ 福田天満宮

福田城とは尾根つながりの場所にあり、関連が窺える場所に位置している。港方面が良く見え、また比較的傾斜が強いので要害を成している。福田城同様港の監視を行うためには適切な位置にある。天満宮には「草住の碑」という天文6年(1547)の碑がある。



- 12 -

↓手熊・柿泊地区探索マップ



宮尾城麓に位置している。温石で造られた2つの石棺があり、片方の石棺には十字架を立てたという小穴が彫られていた。このキリシタン墓は福田忠兼の父で福田氏17代「福田兼次」夫妻のものであるとされている。

永禄8年(1565)、福田兼次は大村純忠の命により、ポルトガル船との貿易港として福田浦を開港するとともにキリシタンの洗礼を受けた(洗礼名:ジョウテン)。キリシタン墓周辺の地名を「ジョウサン」と呼んでいるのは、この洗礼名「ジョウテン」の名残とされている。ちなみに福田村郷土史には「平家の武将だった者の墓だと伝え聞いており、墓を粗雑にするが罰が当たると教えられ、これまで長年大切に祀ってきた」とある。福田氏は元々「平姓」であるため、関連が窺える。



- 13 -

②館山(手熊館屋敷)



手熊館屋敷とも呼ばれ、「大村郷土記」によると「手熊浦の柿泊郷西の方海辺人家の上にあり、今は畑地にて地形不詳、西北の方海に臨み、少しの山にて絶壁なり」とあり、また「元禄記」には、「上段十四間四方、下段長さ三十間、天正十四年福田大和守忠兼取立て、今は畑地なりと言う。」とある。「福田村郷土史」によると手熊屋敷跡は当時の領主であった福田氏18代福田忠兼(1586)がよく休憩していたところとも言い伝えられ、それがためにその屋敷前の入り江を「館の浦」あるいは「殿の前(とのさき)」と言い、また屋敷裏一帯については「殿の後(うしろ)」とも呼んでいるとのこと。

実際に登ってみると、頂上付近には畑地の名残と思われる段々畑の石積が見られる。頂上部の周囲はぐるりと石積みで囲っており、南西部側には土塁のような高まりが続いている。また頂上部から北側の海を見渡せる場所には2つの櫓台らしき高まりが見られるがなぜ2つあるのか、用途不明。南東部には虎口様の石垣が見られるが、後世のものか? 館山は全体がほぼ断崖絶壁に覆われており、尾根筋以外からの攻めはほぼ不可能。外海側にもろに面する立地であるために、舟の往来や海からの敵に対する監視の役割を果たしていたことは確かと思われる。現在の柿泊港は埋め立てであるため、かつてはその辺りに船を停泊させて、有事の際には速やかに行動できるようにしていたのではないかと感じられた。

③下のどん ④上のどん

下のどんは手熊浦を一望できる場所にある。福田氏19代「福田兼親」夫妻の祀り墓とされるが、詳細は不明。さらには「上のどん」が祀られている。上のどんは地元の方には「とん(殿)の墓」と言い伝えられている。手熊浦や宮尾城、館山や舞島城を広く見渡す事ができる。位置的に舞島城の尾根筋先端にあたるため、関連が窺える。舞島城は元々福田氏の一族である「檀氏」によるものとされている。この檀氏は戦国末期に大村純忠に叛き、三重において福田氏18代福田忠兼に打ち取られた。その後舞島城は福田氏に与えられた。福田氏遠祖の墓ではないかとされている。



- 14 -

神浦地区

神浦地区には嘉歴4年(1329年)に「神浦源次」と名前が見え、永和年間(1375~79年)には神浦城主「大串(神浦)小次郎俊長」が領主であったという。遺構としては「神浦城」の他に、平安時代末からの歴史を持つ「鷹ノ巣石鍋製作所跡」がある。



①神浦城

永和年間(1375~79年)に在地領主の大串(神浦)小次郎俊長が築いたとされる。神浦氏は時津氏らとともに「丹治比氏」の一族であるとされるが、戦国時代になると大村純忠に従った。永禄9年(1566年)に武雄の後藤貞明とともに大村氏を裏切ったが、天正期(1580~)には純忠の命を受けて長崎基左衛門純景を助けている。神浦城跡は発掘調査が行われ公園化している。主郭部はほぼ台形型であり、尾根筋側を1本の堀切で遮断している。南側主郭部には柱穴群がみられるために何かしらの構築物があった可能性が高い。

15~16世紀の所産である陶磁器が多く発掘され、また石塔も出土している。



光照寺

神浦城の山麓に位置する光照寺には、領主の墓守として現在地に移転したという寺伝があるとのこと。神浦氏の居館跡であったとされている。寺域内には神浦氏第11代正通、正通の三男長通、正通の孫高茂の3基の墓碑が残っている。長通は大村藩主大村純長に近侍して寵愛を受けたとの事で、墓碑には「大村十郎兵衛丹治長通」と大村姓で記載されている。また字に「丹治」も記載があり、前述「丹治比氏」との関連が窺える。



- 15 -

②大城 ③田中城

大城は断崖絶壁の城山山頂に築かれている。現在は城山展望台が設置されており、非常に眺望が良い。山頂部は巨石が散乱しており建造物は建てられそうにない。山麓部は畑地の跡なのか段々構造が見られる。田中城は下見崎町、日浦病院の裏手に位置しており、石積が見られるものの比高が低く、山城というより館跡や陣跡のように感じられる。

大村郷土記によると「田中城と佐賀藩大城との間で戦いがあり、大城方が敗れて南の海に網を下ろし、それをつたって逃げた」とされている。中世における三重や外海は深堀氏、大村氏、長崎氏らの飛び地が複雑に点在しており断えなかったものと思われる。

天正12年(1585)沖田暉の戦いで能造寺隆信が敗死した後、「アフォンソ・デルセナ神父」の記録によると「天正14年(1586)、大村殿は決してこれらの地を見捨てようとはしなかった。彼(大村純忠)については有馬氏が支配する内海(長与村等?)と外海(神浦?)の城を攻めた。無血裡とはいかなかったが、大した難儀もなく、彼はこの地を回復した」とあり、能造寺氏の脅威が去った後大村純忠が旧領奪還に動いている事がわかる。また天正8年(1580)、深堀純賢と西郷純亮に挟撃された長崎基左衛門純景への援軍として「田中兄弟」の名前があるが、田中城との関連は不明(大村純忠家臣の「一瀬宗正」は元々田中姓であり前記の合戦に参戦した際、一瀬口で功を立てた事から一瀬姓を賜ったとの事)。

④鷹ノ巣石鍋製作所



西彼杵半島には蛇紋岩帯の周辺に滑石岩脈が発達している。滑石製石鍋は平安時代末から中世の西日本に広く流通した厨房具である。水田生産が乏しい土地の住民にとって石鍋生産と輸送を担うことは生活の糧を得るための産業となっていた可能性が高い。

当時は石鍋4つが牛1頭と同じ価値であるといわれ、とても価値があったので探掘は一大事業であった。ここで削り取った程度形を整え、作業場で細かく加工して出荷。その製品を瀬戸の家船(えぶね)と呼ばれる船上に暮らす人々が小舟で運び、大きな船に乗せて輸送していた。

製作所跡には数百年も昔のノミ跡や採掘跡がまだに岩盤に残っている。また加工途中の石鍋が今なお転がっている。

- 16 -

○成果物パンフレット



○成果物アクリルキーホルダー

「深堀領主 深堀純賢」



ながさき山城・砦 探検魅力発信塾

塾長	山喜 邦次				
1	藤原 久郎	21		41	
2	稗圃 健史	22		42	
3	山口 雄二	23		43	
4	平柳 道子	24		44	
5	川添 美知子	25		45	
6	福田 浩一	26		46	
7	島田 博志	27		47	
8	山口 忠彦	28		48	
9	藤瀬 光子	29		49	
10	山口 優子	30		50	
11	永田 勇太郎	31		51	
12	田中 初季	32		52	
13	川島 健市	33		53	
14	石丸 京子	34		54	
15	楠 麻衣子	35		55	
16		36		56	
17		37		57	
18		38		58	
19		39		59	
20		40		事務局員	中央総合事務所 総務課 本田 航貴

渋谷・長崎歴史文化情報発信塾





塾長 倉持 基

■ 塾長コメント ■

塾長である私は東京出身ですが、本業は長崎の古写真研究（私たちの研究グループでは「歴史写真学」と呼称）を専門とする大学教員のため、長崎にはいずれ恩返しがしたいと学生の頃から常々考えていました。また、私は渋谷区のコミュニティFM「渋谷のラジオ」の番組『渋谷龍馬会』でパーソナリティを務めています。そのため、私は職業柄、長崎と関わりのある歴史上の人物のご子孫に知り合いが多く、更に歴史関係の研究者やエンターテインメント系の協力者も多いことから、“歴史・文化×情報発信”をコンセプトに、情報発信の中心地である渋谷から、一般的にはあまり知られていない江戸/東京における長崎の歴史・文化を発信し、東京にお住まいの方々には東京から遠く離れている長崎を身近に感じてもらうとともに、長崎出身の方々へは郷土愛を呼び覚まし、また、今まで長崎と繋がりのなかった人たちには長崎に興味や親しみを持ってもらい、実際に長崎を訪れるきっかけなることを願って「渋谷・長崎歴史文化情報発信塾」を企画しました。

■ 塾の目的 ■

本塾は、地域の歴史と文化を掘り下げ、それを広く発信することを目的に活動していま

す。また、長崎と東京という、地理的には遠く離れた二つの地域の歴史的つながりや文化的交流に焦点を当て、両地域の魅力を再発見し、それを未来へと伝える架け橋となることを目指しています。

■ 塾の研究・活動内容 ■

昨年度の本塾は、近代以前に長崎に生まれ、江戸/東京に足跡を残した歴史的人物」を研究対象とし、成果物としてその中の6名に関する冊子を作成しましたが、本年度は、主に長崎外に生まれて長崎で成長し（ここでいう「成長」とは、長崎で学んだり技を磨いたり、商売に励んで名を広めたり評価を上げたりしたことを意味します）、その後、江戸/東京で足跡を残した歴史上の人物に関する経歴や事象、出来事、ゆかりの場所・土地を調べ、記述して情報化し、成果物（冊子）にまとめていくという作業を行いました。なお、本塾では、長崎で成長した人物を“長崎育ち”の人物と定義づけています。

本年度の塾活動では、江戸時代から近代にかけての長崎の存在価値を多角的に分析するとともに、現代における長崎と江戸/東京の歴史・文化交流の可能性についても探究しました。特に、江戸時代の長崎を通じた情報の流れや、江戸/東京における海外文化の受容と発展のプロセスに注目し、それぞれの地域が人物を通してどのように歴史の中で相互に影響を及ぼし合ってきたのかを検討しました。

また、本年度はフィールドワークや資料調査を通じて、新たな史実や文化的背景を明らかにすることにも努めました。“長崎育ち”の偉人たちの長崎における異文化交流に関する資料を精査し、明治以降の東京における外国文化との接点を調査しました。その結果、

両地域のつながりが単なる一時的な交流ではなく、時代を越えて多層的に継続していることが明らかになりました。

さらに、本塾では研究成果を地域社会と共有することを重要視し、コミュニティFMやオンライン活動を通じて広く情報発信に努めました。特に、若い世代に対して歴史や文化への関心を持ってもらうためのワークショップを開催し、参加者とともに学びの場を作ることができました。

今後の活動の方向性としては、長崎・東京でさらに多くの方々と連携し、歴史や文化に関心を持つ人々のネットワークを広げること为目标としています。また、国際的な視点からも長崎と東京の交流を考察し、日本と海外の歴史的関係についての理解を深めていく予定です。地域の歴史を掘り下げることで、現代社会における新たな価値を見出し、それを次世代に継承することが、本塾の果たすべき役割であると確信しています。

■ 塾活動の成果 ■

本年度の塾活動は、最初に本年度の塾の目的と方法を塾長と塾生との間で共有化し、さらに塾生の関心事と今後のスケジュールの確認作業を行い、本年度の塾の目的に合致する歴史上の人物の選定作業から始め、人物が出揃ったところで、それらの人物の資料・情報の収集を開始しました。

そして、本年度の研究対象人物の調査・資料収集を行う一方で、昨年度の成果物で取り上げた人物の記述内容のブラッシュアップ作業も同時並行で行い、既に記述された情報に磨きをかけ、その後見つかった資料や情報を追加・整理すると共に、引き続き地域を歩いてフィールドワークも行いました。

さらに、昨年度・本年度とスポットを当てた長崎偉人と、まだ研究対象にはなっていない他の多くの長崎偉人たちの江戸/東京での足跡を示すマップを作成し、東京23区別に住所・最寄り駅・位置を記述しました。これは、東京には多くの長崎所縁の地があることを認識してもらい、長崎に思いを馳せ、その地を実際に訪れてもらうことを目的としています。

以上のような調査・研究活動の結果、次のような結論に至りました。長崎は江戸時代、日本で唯一海外との窓口を持つ都市として発展しましたが、出島を通じてオランダや中国との交易が行われ、医学・科学・芸術など、多くの西洋文化がこの地から日本に伝えられました。一方、江戸や明治期の東京では、長崎を経由してもたらされた西洋文化が吸収され、都市の発展や近代化に大きく寄与しました。例えば、蘭学者たちが長崎で得た知識を江戸や東京へ持ち帰り、日本の近代医学の発展に貢献したことはよく知られています。また、美術や音楽、建築といった文化の領域でも、長崎を起点とする影響が見られます。江戸/東京が受けた長崎の歴史や文化、それを橋渡ししたもののこそ、昨年度そして本年度の本塾で研究対象としたような歴史上の偉人たちであったということを強く実感することができました。

最後に、本塾の活動を支えてくださった関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。本塾は来年度も活動を継続し、さらなる発見と発信を続けていく所存です。これからも、長崎と東京の歴史的・文化的なつながりを深めるための研究やイベントを企画し、多くの方々とともに学びの場を広げていきたいと考えています。引き続き、皆様のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

渋谷・長崎歴史文化情報発信塾 活動記録

日 時	場 所	内 容
令和 6 年		
5 月 21 日 (火)	リモート	長崎伝習所開所式にリモートで参加。
5 月 25 日 (土)	ともながクリニック (新宿)	第 1 回塾会議：塾の目的や活動内容の確認、役割分担の決定。
6 月 15 日 (土)	ともながクリニック (新宿)	講演会：西洋流火術鉄砲隊保存会（高島流砲術）会長の勝田真幸さんを講師にお迎えしての講演会。講演後には勝田さんと塾生とで質疑応答。
7 月 20 日 (土)	ともながクリニック (新宿)	勉強会：6 月の定例会で塾生に出した宿題「今年度の当塾で取り上げていきたい人物や場所」について、塾生に報告してもらう。また、その報告に対する質疑応答や討論を行った。
8 月 10 日 (土)	新宿ビルディング（貸会議室）	ミーティング兼役員会：成果物（冊子）に取り上げる人物について、役員で選考。
8 月 17 日 (土)	ともながクリニック (新宿)	講演会：榎本武揚玄孫・榎本隆一郎さんを講師にお迎えしての講演会。講演後には榎本さんと塾生とで質疑応答。
8 月 26 日 (月)	新宿アイランドタワー（貸会議室）	ミーティング兼役員会：9 月に行うフィールドワークに関する打合せ。資料の検討や案内人の手配など。
9 月 21 日 (土)	中央区築地周辺	中央区築地周辺の長崎人ゆかりの場所のフィールドワークに参加塾生全員で行う。
10 月 16 日 (水)	FEEEP 新宿東口（三丁目）店（貸会議室）	ミーティング兼役員会：収集した資料や撮影した写真の整理作業、および次回定例会の内容を検討。
10 月 26 日 (土)	ともながクリニック (新宿)	勉強会：9 月のフィールドワークの報告と、本年度の成果物（冊子）で取り上げる歴史上の人物とその担当者を決定。
11 月 30 日 (土)	ともながクリニック (新宿)	勉強会：本年度の成果物（冊子）で主に取り上げる歴史上の人物について執筆を担当する各担当者に、資料・情報の収集状況や執筆状況など、各担当者から現時点での途中経過を報告してもらい、今後の対応策について話し合う。また、2025 年 3 月に開催される今年度の長崎伝習所まつりにおける当塾の企画について、塾生からの意見を聞く。
12 月 14 日 (土)	ともながクリニック (新宿)	勉強会：3 名の塾生に、自分が担当している歴史上の人物の資料や調査状況に関する話を聞いて、塾生で討論。

日 時	場 所	内 容
令和 7 年		
1 月 13 日(土)	FEEEP 新宿東口（三丁目）店 （貸会議室）	ミーティング兼役員会：今後の冊子制作と編集作業に関する打合せ。
1 月 18 日(月)	ともながクリニック（新宿）	勉強会：前月とは別の 3 名の塾生に、自分が担当している歴史上の人物の資料や調査状況に関する話を聞いて、塾生で討論。
2 月 1 日(土)	ともながクリニック（新宿）	勉強会：前月、前々月とは別の 3 名の塾生に、自分が担当している歴史上の人物の資料や調査状況に関する話を聞いて、塾生で討論。
2 月 15 日(土)	ともながクリニック（新宿）	勉強会：さらに別の 3 名の塾生に、自分が担当している歴史上の人物の資料や調査状況に関する話を聞いて、塾生で討論。
3 月 1 日(土)	ともながクリニック（新宿）	勉強会：成果物（冊子）掲載文の最終チェックと長崎伝習所まつりの当塾ブースで行う展示、映像、トークなどのチェックを行う。また、研究成果報告書に関する討議も実施する。
3 月 8 日(土)	ともながクリニック（新宿）	勉強会：長崎伝習所まつりの当塾ブースで行う展示、映像、トークなどの最終チェック、および研究成果報告書に関する最終チェックを行う。
3 月 15 日(土)	ベルナード観光通り（長崎）	長崎伝習所まつりに参加。
3 月 22 日(土)	FEEEP 新宿東口（三丁目）店 （貸会議室）	ミーティング兼役員会：長崎伝習所まつりの報告、成果物（冊子）の配布状況の確認、予算執行状況の確認などを行う。
3 月 30 日(日)	渋谷区桜丘	渋谷桜丘桜まつりで研究発表。

● 本年度の成果物『長崎偉人の江戸・東京開花(2024年度版)』について

本年度は、主に「長崎外に生まれて長崎で成長した人物（長崎で学んだり技を磨いたり、商売に励んで名を広めたり評価を上げたりした人物＝長崎育ちの人物）」に着目し、彼らの生涯や功績を詳しく調査することにしました。具体的には、日本初の産科医である楠本イネ（1827～1903）、土佐藩出身の政治家である佐々木高行（1830～1910）、長崎で海援隊を結成した坂本龍馬（1836～67）、長崎海軍伝習所の二期生である榎本武揚（1836～1908）、長崎を拠点に事業を展開したトーマス・ブレーク・グラバー（1838～1911）、石川島造船所の創立者である平野富二（1846～92）、日本の近代女子教育の第一人者である石井筆子（1861～1944）、長崎出身の実業家である梅屋庄吉（1869～1934）、そして日本で初めて国際的な名声をつかんだオペラ歌手である三浦環（1884～1946）の9名に焦点を当て、研究対象としました。これらの人物がどのように長崎での経験を糧にし、それぞれの分野で輝かしい業績を挙げて東京に足跡を残したのかを探ることを目的とし、成果物としての冊子を制作しました。なお、平野富二、石井筆子、梅屋庄吉については長崎生まれであるため（石井筆子は大村藩出身）、厳密には本年度の研究対象とは異なりますが、塾生の関心の高さや“長崎育ち”という視点を重視し、特別に研究対象に加えることとしました。

それぞれの人物の足跡と功績の詳細については、本塾が発行した冊子『長崎偉人の江戸・東京開花(2024年度版)』に掲載されています。本冊子では、各偉人の生涯や業績を多角的に分析し、当時の社会背景とともに詳しく解説しています。内容は次の通りです（括弧内は執筆者）。

1. はじめに（倉持基）
2. “長崎育ち”の偉人たち(1)…楠本イネ（朝長修、中村奈美、佐藤正子）
3. “長崎育ち”の偉人たち(2)…佐々木高行（末松康春）
4. “長崎育ち”の偉人たち(3)…坂本龍馬（倉持基）
5. “長崎育ち”の偉人たち(4)…榎本武揚（榎本隆一郎）
6. “長崎育ち”の偉人たち(5)…トーマス・ブレーク・グラバー（小曽根淳二）
7. “長崎育ち”の偉人たち(6)…平野富二（本間一之）
8. “長崎育ち”の偉人たち(7)…石井筆子（高山美枝子、佐々木信子）
9. “長崎育ち”の偉人たち(8)…梅屋庄吉（倉知志帆）
10. “長崎育ち”の偉人たち(9)…三浦環（斎藤達章）
11. 終わりに（小曽根淳二）

次頁から、『長崎偉人の江戸・東京開花（2024年度）』に書かれた内容を基に作成された研究成果発表用のポスターをご覧ください、研究成果の一片を垣間見ていただければと存じます。なお、研究成果発表用のポスターは、本塾塾生の上田佳代子さんにデザインや構成にも工夫を凝らしながら丁寧に作成していただきました。

- 『長崎偉人の江戸・東京開花（2024年度版）』表紙

長崎偉人の江戸・東京開花

幕末～昭和！ 日本の近代化・文明開化に功績を残した“長崎育ち”の偉人たちと東京における足跡

2024年度版



長崎伝習所・東京塾
渋谷・長崎歴史文化情報発信塾

● 楠本イネ①



(1827年～1903年)

シーボルトの娘 女性初の産婦人科医として歩んだ道

楠本イネは、シーボルトと長崎の商家俵屋の娘、瀧（たき）の間に生まれました。出生地は現在の長崎市銅座町です。楠本イネは、女性初の西洋医学を学んだ産婦人科医です。若い頃から医学に興味を持ち、1840年14歳から宇和島藩卯之町（現在の西予市宇和町）の二宮敬作の元で学び、19歳からは岡山で産科修行を積みました。25歳で帰郷後、産科医として活動し、女性医師としての道を切り開きました。シーボルトの再来日を機に医学の研鑽を重ね、長崎や東京で診療を行い、明治天皇の第一王子の誕生に立ち会うなど、広く活躍しました。多くの困難を乗り越えたイネは、女性医師として日本の医学の発展に大きな貢献を果たしています。

鳴滝塾

1823年オランダ商館医として長崎に赴任したドイツ人医師、フィリップ・フランツ・フォン・シーボルトは鳴滝塾を開き、塾生に西洋医学を伝授しました。1877年楠本イネ（51歳）の頃、亡父の鳴滝塾が壊されたことを知り、その後鳴滝の土地の確保と保存に尽力しました。現在長崎市営のシーボルト記念館が建っているのはイネの功績でしょう。



イネ、母、恩師の二宮敬作の功績をたたえた
顕彰碑長崎市鳴滝寺（2024年、本間一之氏撮影）

楠 本 イ ネ

文：

朝長 修

（ともながクリニック代表）

中村奈美

（渋谷・長崎歴史文化情報
発信塾 事務局長）

佐藤 正子

長崎縁の
偉人たち1

● 楠本イネ②

長崎縁の
偉人たち1

楠本イネ

シーボルトの娘
女性初の産婦人科医として歩んだ道

INE

長崎さるく



長崎市 シーボルト記念館
崎港塾跡（シーボルト宅跡）



長崎市 咭台寺



いね宮内省御用かけ依頼書類：シーボルト 記念館



長崎市 シーボルト像



東京築地 シーボルト像

東京さるく



明治22年（1889）62歳～
麻布区我善坊町25番地寄留
六本木一丁目駅建設中付近、麻布台
ヒルズレジデンス・サウジアラビア
大使館付近



明治24年（1891）5月64歳～
麻布区麻布仲ノ町6番地
＜異母弟の男爵ハインリッヒの自邸へ＞
先にイネと周三が移り、後に高子・長女たき、次
女種も同居。高子（当時39歳）は事曲中心の生活
を送り、周三（当時17歳）、たき（当時8歳）、
種（当時4歳）の養育には主としてイネがあたっ
たと考えられます



明治36年（1903）～明治36年（1903）
8月26日76歳麻布区飯倉片町28番
現在の港区六本木五丁目エリア。麻布テ
ラスアパート付近。イネの終焉の地明
治36年（1903）8月26日午後8時過ぎ、
楠本イネは食あたりにより死去。高子の
回想では、「母イネは鰻を食べ、その後
に水瓜（スイカ）を食べたことで食あた
りを起こし、それが死因となった」とあ
りました



● 佐々木高行①



(1830年～1910年)

龍馬と共に駆け、明治を支えた男

佐々木高行は、土佐藩出身の政治家であり、幕末から明治にかけて日本の近代化に尽力した人物である。藩政を支え、坂本龍馬や後藤象二郎とともに大政奉還の実現に関わった。長崎では大監察として外国との交渉を行い、いろは丸事件やイカルス号事件の対応に奔走した。

明治維新後は、新政府の司法行政を担い、岩倉使節団の一員として欧米諸国を視察。帰国後は天皇親政の実現を目指し、侍補として明治天皇の補佐役を務めた。特に、大久保利通の暗殺後は、天皇との直接対話を重視し、政治的な発言力を強めた。晩年は元老院副議長として国政に影響を与え続け、明治天皇の厚い信頼を得た。彼の生涯は、維新の理想と天皇親政の実現を追い求めた道のりであった。

佐々木大將軍と呼ばれて

幕末、長崎で頻発する外国人とのトラブル対応に奔走していた佐々木高行。坂本龍馬は彼を「佐々木大將軍」と呼び、いろは丸事件や大政奉還に関する相談を持ちかけた。特に、龍馬が暗殺された後も佐々木は海援隊を支え、土佐藩の財政を使って隊士たちを救済した。激動の時代において、龍馬の影の支えとなった名参謀の存在はあまり知られていない。



左 末松康春 中央 佐々木（末松） 志賀子 右 末松正春

佐々木高行

TAKAYUKI

文：末松康春
(佐々木高行玄孫)

長崎縁の
偉人たち2

● 佐々木高行②

長崎縁の
偉人たち2

佐々木 高行

TAKAYUKI



(1830年～1910年)



佐々木高行



伊藤博文(左)と佐々木高行



伊藤博文 / 末松謙澄



あらすじ

- 1 土佐の佐々木家は源氏の嫡流にあたる
- 2 佐々木高行誕生、山内豊信（容堂）の側近となる
- 3 長崎 坂本龍馬と佐々木高行
 - (1) 佐々木大將軍
 - (2) いろは丸事件
 - (3) イカルス号事件
- 4 龍馬の死後 佐々木が長崎を守る
- 5 新政府に参加
 - (1) 長崎裁判所参謀助
 - (2) 司法行政上の功績役に
- 6 岩倉使節団の随員に
- 7 佐々木の帰郷命令
- 8 天皇親政運動
- 9 佐々木と伊藤のバトル
- 10 晩年

あとがき

佐々木高行は、土佐の出でありながら、幼少期に極貧の生活を経験したため、庶民の暮らしに深い関心を持ち、政治においても国民の生活を大切に考えていた。

私生活でもその姿勢は変わらず、伊藤博文の女婿である末松謙澄（筆者・末松康春の曾祖父）が豊前（現在の行橋市）から仕事を求めて上京した際、極貧の生活を送っていた彼を書生として迎え、学資を含め全面的に支援した。さらに、佐々木の次女・静衛が東京大学の敷地内にあったフルベッキの家で英語を学ぶ際、謙澄は用心棒として同行。その家には高橋是清が寄宿しており、静衛のレッスンの合間に、是清が謙澄に英語を、謙澄が是清に漢文を教えるという「交換教授」の機会が生まれた。この縁もまた、佐々木が取り持ったと言えるだろう。

さらに、佐々木と伊藤博文は、天皇親政を巡り激しく対立したが、後にその孫同士が結婚するという歴史の巡り合わせがあった。佐々木高行の次男・高志の四女・志賀子と、伊藤博文の次女・生子と結婚した末松謙澄の養子・末松春彦が夫婦となり、佐々木と伊藤は縁者となったのである。筆者自身も少年時代、練馬で祖父母と生活を共にした。祖母の志賀子は佐々木高行の気質を受け継いでか、「常磐会」で「怪物」と呼ばれ、80歳を過ぎても三笠宮様とアイスダンスを楽しみ、エレクトーンでカンツォーネやタンゴを弾くなど、ハイカラな人物だった。一方、祖父・春彦は日銀に勤め、酒を一滴も飲まず、孫とキャッチボールをするという優等生的な生活を送っていた。筆者が小学生の頃、祖母のエレクトーンで流れていた「ボラーレ」や「真珠採りの歌」は、今も鮮明に記憶に残っている。



末松康春

● 坂本龍馬①



(1836年～1867年)

坂本龍馬と長崎—日本の未来を描いた地

坂本龍馬にとって長崎は、夢を形にする場所だった。1865年、彼は日本初の商社「亀山社中」を長崎に設立し、武器や物資を調達しながら、幕末の動乱を乗り越えるための土台を築いた。ここで薩摩藩や長州藩と結びつきを強め、のちに薩長同盟の成立へとつなげる。さらには、長崎の貿易ネットワークを活かし、日本の海運業の発展を目指した。異国の文化と触れ合いながら、龍馬は新しい日本の姿を思い描いていたのかもしれない。

坂本龍馬は、江戸で剣術修行を通じて自信と思想を育み、ペリー来航で国際情勢を痛感。長崎では亀山社中を設立し、貿易で経済的自立を追求。薩長同盟の仲介や大政奉還を主導し、幕藩体制の転換に尽力した。江戸と長崎は、彼が志士たちと連携し近代化ビジョンを具体化する舞台となった。暗殺後、その思想は新政府に継承され、日本の近代化の礎となった。

坂本龍馬

RYOMA

文：倉持基
渋谷・長崎歴史文化
情報発信塾 塾長

長崎縁の
偉人たち3

● 坂本龍馬②

長崎縁の
偉人たち③

坂本 龍馬



風頭公園 坂本龍馬之像

略年譜

誕生と幼少期（1836 年～1853 年）

天保 6 年（1835）、土佐藩（現在の高知県）にて郷土の家に生まれる。幼少期は病弱だったが、剣術や学問に興味を示す。

江戸への剣術修行（1853 年～1854 年）

嘉永 6 年（1853）、江戸へ出て千葉道場で剣術を学ぶ。黒船来航を目の当たりにし、外国の脅威を実感。

土佐藩での活動と脱藩（1854 年～1862 年）

土佐に戻り、武市瑞山らと交流。文久 2 年（1862）、土佐藩を脱藩し、志士として活動を開始。

勝海舟との出会いと海軍操練所（1862 年～1864 年）

勝海舟と出会い、その影響を受ける。神戸海軍操練所で海軍技術を学ぶ。

亀山社中の設立（1865 年）

長崎にて亀山社中（後の海援隊）を設立。貿易や武器調達を通じて倒幕運動を支援。

薩長同盟の仲介（1866 年）

薩摩藩と長州藩の間を奔走し、薩長同盟を成立させる。倒幕運動の重要な転機となる。

船中八策の提唱（1867 年）

新国家の基本方針として「船中八策」を提唱。のちの明治政府の政策に影響を与える。

大政奉還の実現（1867 年）

徳川慶喜に大政奉還を進言し、実現させる。江戸幕府の終焉と新たな政治体制の構築を目指す。

近江屋事件と暗殺（1867 年）

慶応 3 年（1867）11 月 15 日、京都の近江屋にて暗殺される。暗殺の背景には諸説あり、未だに謎が多い。死後の影響と評価坂本龍馬の思想や行動は、明治維新後の日本に大きな影響を与える。後世において、自由で革新的な人物として高く評価される。



RYOMA

● 榎本武揚①



(1836年～1908年)

武揚の足跡をたどる ～東京都内のスポット～

幕末から明治にかけて「一生で二度輝いた男」と称される榎本武揚。幕臣として戊辰戦争を戦い、箱館戦争で五稜郭に立てこもった彼は、降伏後に投獄されながらも助命され、明治政府で外交官や大臣として活躍しました。

江戸・下谷三味線堀で生まれた武揚は、昌平坂学問所で学び、オランダに留学して海軍技術を得。帰国後、最新鋭艦・開陽丸を率いて戦いました。投獄生活では科学論文を執筆し、釈放後は北海道開拓や樺太・千島交換条約の交渉など国の発展に尽力しました。東京都内には、彼の足跡をたどれるスポットが点在しています。湯島聖堂（昌平坂学問所跡）、築地の軍艦操練所跡、東京農業大学開校の地、向島百花園、榎本武揚旧居跡、吉祥寺（墓所）などが代表的です。

長崎海軍伝習所と榎本武揚

幕府は海軍力強化のため、安政2年（1855）に長崎海軍伝習所を開設。榎本武揚も入所を志すが年齢制限で聴講生となり、翌年正式に入校。伝習所では後にオランダの海軍大臣となるカッテンディーケが指導し、武揚はその熱意を高く評価された。ここで培われた知識と経験が、日本初の海軍中將となる武揚の礎となった。



開陽丸

開陽丸青少年センター

榎本武揚

TAKAKI

文：榎本隆一郎
(榎本武揚玄孫)

長崎縁の
偉人たち4

● 榎本武揚②

長崎縁の
偉人たち4

榎本 武揚

TAKEAKI



オランダから開陽丸で持ち帰った通信機。
《ディニエ製モールス印字通信機》



五稜郭全体像/中央が箱館奉行所

長崎さるく

長崎海軍伝習所は、長崎県長崎市江戸町（現在の長崎県庁付近）にありました。安政2年(1855)から同6年まで、2期4年にわたって伝習が行われています。

東京さるく

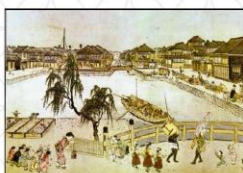
◆東京農工大学の前身 徳川育英堂
明治18年（1885）武揚は旧幕臣の子弟を救済することを目的とした奨学金を支給しようと考えて、徳川育英会を作ります。明治24年（1891）になると、飯田橋に「育英堂」を設立、当初は農業科、商業科、普通科の3科がありましたが、農業科だけが残り、これが後の東京農工大学となって行きます。



古地図



黒田清隆（左）
榎本武揚の助命嘆願のため、丸坊主にした。



「三味線堀」



北辰社牧場跡



東京農工大学開校の地

● トーマス・ブレイク・グラバー①



(1838年～1911年)

日本の産業改革を支援

蒸気機関車・蒸気船・炭坑やビール会社の設立へ

トーマス・ブレイク・グラバー（1838年生）は、スコットランド出身の商人で、長崎で日本の近代化に大きな貢献をした人物です。海軍大尉で沿岸警備隊隊長の父トーマス・ペリー・グラバーの5男。1859年に上海へ渡り、当時東アジア最大の商社ジャーディン・マセソン商会に勤務。同年9月に来崎し出島商館の2階に住む。その後23歳でグラバー商会を設立。ジャーディン・マセソン商会の長崎代理店となる。生糸・茶の輸出などの貿易商、武器・弾薬・戦艦などの輸入販売等を行い明治維新後は倒産。その後経済人として活躍し、41歳で三菱の顧問。又、『鹿鳴館』の外国人の名誉書記官も務める。日本初の蒸気機関車や蒸気船の修理所を開設。さらに、高島炭坑や日本初のビール会社の設立にも関わり、日本の産業革命を支援しました。彼はまた、薩摩藩や長州藩の留学支援も行い、明治時代の日本の発展に多大な影響を与えました。

東京での足跡

晩年は東京に住み、様々な企業活動を支援。明治21年(1888)港区芝公園地53号に倉場富三郎名義で屋敷を借りる。明治33年(1904)現在の港区麻布に自宅を建築、一部は伊藤博文より寄贈。1911年、73歳で死去。長崎市坂本国際墓地に妻ツル、息子の倉場富三郎夫妻とならんで眠る。



トーマス・ブレイク・グラバー
THOMAS

文：小曾根淳二
(小曾根乾堂の子孫)

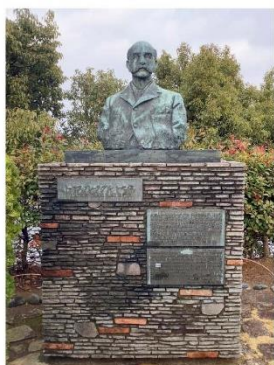
長崎縁の
偉人達5

● トーマス・ブレーク・グラバー②

長崎縁の
偉人たち5

トーマス・ブレーク ・グラバー

THOMAS



関東さるく



京長崎歴史文化博物館蔵

明治21年(1888)

港区芝公園地53号に倉場富三郎名義で屋敷を借りる

※東京府知事宛ての外国人備入届より(三菱資料館蔵)現在の都立芝公園テニスコートがあるあたり。

明治21年(1888)

港区芝公園地53号に倉場富三郎名義で屋敷を借りる

※東京府知事宛ての外国人備入届より(三菱資料館蔵) 現在の都立芝公園テニスコートがあるあたり。

明治37年(1908) 勳二等旭日重光章を受章

明治41年(1911) 12月16日

73歳で、麻布邸宅で亡くなる。死後麻布の邸宅は松平春嶽の3男松平慶民に売却し、その後三陽商会の施設となる。

日光のグラバー別荘地跡

明治25年(1892) 日光市西六番園地に別荘を建てる。
湯川に日本で初めて米国産のカワマス、グラバーが釣りを
楽しむため全額負担して放流する。



● 平野富二①



(1846年～1892年)

～産業の礎を築いた男～ 活版印刷事業 本木昌造を恩師として

長崎出身の実業家で、造船や活版印刷など日本の近代産業発展に貢献しました。彼は幕末に長崎製鉄所で技術を学び、その後、活版印刷事業を成功に導きます。さらに、日本初の民営造船所「石川島平野造船所」（現在のIHIの前身）を創設し、軍艦「鳥海」の建造を成し遂げました。しかし、その功績に反して地元での知名度は低く、本木昌造の影に隠れたことや戦前の社会的背景が影響していると考えられます。長崎から全国へ飛び立ち、日本の重工業の礎を築いた彼の偉業を、今こそ見直す時ではないでしょうか。

八丈島への漂流だけではなく 坂本龍馬と共に拘留される

長崎製鉄所時代、師・本木昌造と共に蒸気船で航海中、激しい嵐に遭遇し八丈島へ漂流。命からがら助かった二人は、この経験を機にさらに絆を深めた。若き平野富二の波乱万丈な人生的一幕である。さらに、22歳では、坂本龍馬とともにイカルス号事件の嫌疑で拘留された経験も持つ。



TOMIJI

平野富二

文：本間一之

長崎縁の
偉人達6

● 平野富二②



平野 富二

TOMIJI



近代活版印刷発祥之地
新町活版所跡石碑
(長崎市興善町)



「平野富二 生誕の地」碑
(長崎市桜町9番6号)



出典：後記1※一部加工 (矢印の先が石川島)

【平野富二年表】①長崎時代 (生誕から長崎製鉄所退職迄)

年齢	西暦(和暦)	富二の動向	関連事項
1歳	1846年(弘化3)	・父次郎富二(後の平野富二) 8/14誕生	・本木昌造23歳
2歳	1848年(嘉永元)	・父 豊三郎富二(4月)	
3歳	1850年(嘉永2)	・豊三郎の半留いを受け始める	・石川島造船所創業
10歳	1855年(嘉永3)		・長崎海軍伝習所開設
12歳	1857年(安政4)	・長崎奉行所御方御用番付付けられる	・長崎製鉄所建設着手
15歳	1860年(万延元)		・本木昌造、長崎製鉄所使用人となる
16歳	1861年(文久元)	・長崎製鉄所御方御用番付となり機械学習得へ、A・B・C・Dの外国製機の配付伝習に参加	・長崎製鉄所完成 (長崎製鉄所)
18歳	1863年(文久3)	・チャールズ号で大坂へ初航海(4月) ※船長:本木昌造 / 機関手:本木昌造 ・西行書次郎と名乗る(西行伝習所と誤り経緯)	
19歳	1864年(元治元)	・ウィリアム号で八丈島に渡来(11月) ※船長:本木昌造 / 機関手:西行書次郎	
21歳	1866年(嘉永2)	・長崎造船所御方御用番付(「国」)の1等機関手へ ・奉命から海軍所一等機関手の内定を受け ・半留いを受ける	
22歳	1867年(嘉永3)	・土佐藩の密航船関係に雇用される(3月) ・イギリス等事件の参考人として勾留(10-11月) ・土佐藩の密航船関係の任を解かれる(11月)	・イギリス等事件(7/5) ・地主書次郎(11/15)
23歳	1868年(明治元)	・長崎造船所一等機関手として「船橋丸」に ・乗船	・本木昌造、長崎製鉄所 ・船長に就任 ・造船(くわがら機)を ・完成
24歳	1869年(明治2)	・小菅造船所の御方御用番付に任命される(3月) ・長崎造船所元帥伝習所に転任(9月) ・立神町造船所建設のトック郡立休に任命される(11月)	・長崎造船所御方御用 ・御方御用番付 ・本木昌造が長崎製 ・鉄所御方御用番付 ・新造船所完成
25歳	1870年(明治3)	・長崎造船所大工部主の山崎三郎の御方御用番付に任命される(10月)	・本木昌造、新町造船 ・所を新町造船所に創 ・業
26歳	1871年(明治4)	・長崎造船所大工部主の山崎三郎の御方御用番付に任命される(10月) ・長崎造船所大工部主、長崎造船所御方御用番付を辞す(3月)	



小菅修船場跡

関東さるく



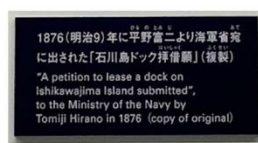
築地の跡地にある活字発祥の碑



旧造船所の敷地はベ
イエリアの再開発に
より高層マンション
が立ち並びパーシ
ティー21へ変貌を遂
げています。当時を
しのぶ石川島資料館
がビルの一角に設け
られています。



長崎製鉄所跡
(長崎市館の浦町)



出典：i-musu (IHI HISTORY MUSEUM)
※一部加工



石川島製鉄所 (旧横浜製鉄所) の職員と富二
出典：後記5



横浜製鉄所跡の碑
(JR京浜東北線石川島駅南)

● 石井筆子①



(1861年～1944年)

**いばら路を知りてささげし身にしあれば
いかで撓（たわ）まん撓むべきかは**

幕末・明治・大正・昭和と激動の時代を駆け抜けた、日本近代女子教育者で、石井亮一と共に日本初の知的障害者教育の創始者でもあります。筆子は肥前国大村藩士・渡辺清の長女として生まれました。11歳まで祖父母と大村で育つ。1885年、華族女学校でフランス語教師として教壇に立ち、津田梅子らと共に女子教育の発展に寄与しました。自身の障害児である長女幸子を育てながら、1893年には「静修女学校」の校長に就任。筆子は「大日本婦人教育会」を設立し、男女同権を唱え、女子教育の重要性を訴えました。

筆子は福祉事業にも尽力し、特殊教育部や保母養成部の設立を通じて、社会における障害児の理解と支援を促進。大正皇后をはじめとする多くの支援者のもと、学園を再建し、国立市に移転後も活動を続けました。筆子の愛用の「天使のピアノ」は、文化財としても評価され、映画化もされました。



天使のピアノ

石井筆子愛用のピアノで、1885（明治18）年3月に横浜のドーリング商会が横浜で製造・販売した、日本最古級のピアノです。

石井筆子

FUDEKO

文：高山美枝子
佐々木信子

長崎縁の
偉人達7

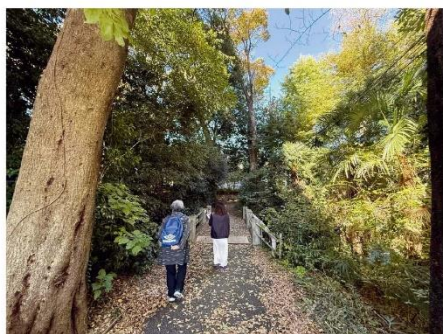
● 石井筆子②

長崎縁の
偉人たち7

石井 筆子

FUDEKO

東京都国立市矢川3丁目16番地1



● 梅屋庄吉①



(1868年～1934年)

孫文を支えた日本人 梅屋庄吉の生涯

梅屋庄吉（うめやしゅうきち）は、明治元年に長崎で生まれ、若くして写真館を開業。1895年、香港で孫文と出会い、「君は兵を挙げたまえ、我は財を挙げて支援す。」と誓いを立て、生涯にわたり孫文の革命を資金面で支え続けました。写真館は革命の拠点となり、清国政府の追及を逃れてシンガポールへ。そこで映画興行に成功し、莫大な資金を孫文に提供しました。

映画事業を拡大し、日本映画界の発展にも尽力。日活の前身となる会社を設立し、教育映画や記録映画を制作しました。辛亥革命成功後も孫文を支え続け、彼の国葬では唯一の日本人として棺を担ぎました。晩年は日中平和のため奔走し、65歳で生涯を閉じました。彼の遺した資金は、現在の価値で1兆円以上とされます。富や名声ではなく、人の心の豊かさを重視した生涯は、まさに「富貴在心」を体現したものでした。

梅屋庄吉と妻・トクの支え合い

庄吉を支えたのが、気丈で愛情深い妻・トクでした。庄吉が孫文の革命や大陸浪人の支援に没頭し、家計が苦しくなっても、不平を言わず支え続けました。孤児や犯罪者を引き取る夫の行動にも、「愛を知らない人には、神のような心で接するべき」と、献身的に世話をしました。さらに、孫文と宗慶齡の結婚を後押ししたのもトク。庄吉とトクの深い信念と行動力が、多くの人々の人生に影響を与えたのです。

梅屋庄吉

SHOKIGHI

文:倉知志帆

長崎縁の
偉人達8

● 梅屋庄吉②

関東さるく

梅屋 庄吉

長崎縁の
偉人たち8

明治 38 年 1905 年 6 月 庄吉は本格的に映画ビジネスに参入するため帰国し上京します。**ここで関東の足跡を辿るツアーのスタートです！**

当時の映画は「活動写真」と呼ばれ、まだ常設館は無く、輸入物を各地の芝居小屋を廻って興行するスタイルでした。無声映画なので、弁士がストーリーを説明しました。庄吉は会社名を「M・パテー商会」としました。フランスの映画会社「パテー」の名を借用、一見親戚かと錯覚させる巧妙なネーミングです。まずは明治 39 年 7 月第一回興行を打った 築地新富座。明治 11 年に再建された歌舞伎の近代劇場第一弾。照明にガス灯を用い、市川團十郎や尾上菊五郎など名優が興行し、通り一帯まるで別世界の芝居町を形成しました。行き方：地下鉄有楽町線・新富町駅 3 番出口すぐ、築地橋を背に平成通り沿い右手に案内板が立っています。跡地は現在都税事務所です。

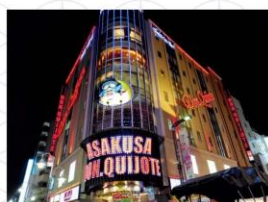


当初の屋敷と社屋（麹町 3 番町 63）事務所、現像所、弁士や楽士の養成所などを設け、その一帯は、「M パテー横町」と言われるほど活気がありました。現在の千代田区九段北・一口坂（いもあらざか）です。靖国神社の社殿の裏、西に面する一角が当時の麹町 3 丁目です。



現在はテニスコートや教会が建っています

邸宅と映画スタジオを建設。場所は多摩郡大久保村大字百人町 350 番地で、現在の住所にすると新宿区百人町 2 丁目 23 番地になります。大理石の門柱 4 本を備えた豪華な門、撮影所と邸宅の間は築山や庄吉の趣味の盆栽棚で隔てられ、自宅は十数室もある広大な邸宅で、試写室や当時は珍しい自家用車のための車庫もありました



④浅草の M パテー常設映画館・大勝館の夜の部を貸し切り、庄吉自ら編集した辛亥革命の記録映画を、孫文のためだけに上映しました。長江沿いを勇ましく行進する革命軍、戦場で炎上する市街地・・・蜂起の際アメリカにいて革命の現場にいなかった孫文は、感激して繰り返し上映を求めました。フィルムは友情の証としてその場で孫文に贈られ、大ヒット間違い無しにも関わらず、日本で一度も公開されることはありませんでした。（現在、フィルムは中国中央電視台に保管。）

⑤日比谷松本楼庄吉馴染みのレストランで、亡命中の孫文を日本の名士各位に紹介するために幾度も宴会を催しました。庄吉の資料を受け継いだ孫・主和子（すわこ）氏が、日比谷松本楼を経営する小坂家に嫁いだため、ここに資料が保存され一部がロビーに常設展示されています。目を引くのは孫文の妻で宗家の三姉妹の次女慶齡が愛用したピアノです。



千葉県いすみ市

⑥梅屋庄吉別荘跡地と愛用の井戸大正 6 年 1917 年建設 1 万 5000 坪、松林に覆われ、2 階からは水平線が見渡せました。残っている写真からすると、和風建築だったようです。実はここで恋の逃避行事件の柳原白蓮を匿っています。駆け落ち相手の龍介は、旧知の大陸浪人・宮崎滔天の息子だったので、新聞沙汰になる前から 2 人のことは知っていたのです。白蓮はお嬢様故に身の回りのことを何一つ自分で出来なかった。生活していく上でのこと 1 から教えたのもトクでした。庄吉はこの別荘で秘密の会議をしばしば行っており、最も頼りにしていた政治家犬養毅を始め、多くの代議士や実業家達が訪れました。孫文は勿論のこと、若き日の蒋介石ら中国革命の志士らも逗留しました。



⑦本寿院に「松清群衆の霊」と刻まれた墓がある。葉外房の海岸に打ち寄せられた身元不明の死者を弔った墓です。裏に「大正十年九月十三日 施主梅屋庄吉建之」と刻まれています。庄吉は香港では客死し無縁仏となった日本人の墓碑を建てていますし、他にも例があります



⑧外房線三門駅

庄吉には胃腸の持病があったそうです。晩年の庄吉は、日中が戦争に至らないようにと、中国との対話を進言するために奔走していました。孫文と誓い合った東洋の平和を守り抜きたかったのでしょう。外相広田弘毅との会談を控え、命を受ければいつでも大陸に渡るつもりでいた、昭和 9 年 11 月 15 日。庄吉は三門駅ホームで倒れ、8 日後に息絶えました。トクに「おまえほど、わしに尽くしてくれたものはなか・・・。」と言い残して。享年 65

● 三浦環①



(1884年～1946年)

日本初の世界的オペラ歌手

三浦環は、日本人初の国際的オペラ歌手であり、特にプッチーニの《蝶々夫人》の蝶々さん役で世界的な名声を得た。東京音楽学校で学び、在学中から音楽の才能を発揮。卒業後、海外で声楽を学び、1915年にロンドンで《蝶々夫人》を演じ、大成功を収めた。以降、欧米を中心に通算2000回以上この役を演じ、作曲家プッチーニからも「最も理想的な蝶々さん」と称賛された。

また、シカゴでは《お菊さん》の主演も務め、日本の文化を海外に広める役割も果たした。戦争の影響で1936年の凱旋公演は中止を余儀なくされたが、彼女の功績は色あせることなく、今も語り継がれている。

晩年は山梨県山中湖村で過ごし、1946年に62歳で死去。その歌声は今も世界中のオペラファンの記憶に残り、日本の音楽史に燦然と輝いている。

元祖”ハイカラさん”の自転車通学

三浦環は東京音楽学校に通う際、当時珍しい英国製の赤い自転車で通学していた。海老茶の袴姿で颯爽と走る姿は話題となり、「自転車美人」として新聞にも取り上げられた。後輩の山田耕筰が通せんぼしてふざけるほどの注目ぶりだった。



山中湖交流プラザきらら

三浦環

TAMAKI

文:斎藤達章

長崎縁の偉人達9

● 三浦環②

長崎縁の
偉人たち9

三浦環

TAMAKI



プッチーニ像 長崎市南山手町8

山中湖交流プラザきらら・
湿生花苑内「三浦環銅像」
山梨県山中湖村平野



「三浦環の像」長崎市南山手町8

● 塾生の感想

◇ 榎本隆一郎（榎本武揚玄孫）

榎本武揚・五代目子孫として、私なりの（かなり個人的な）武揚像を描いてみました。長崎に関係ない部分は大幅に省いていますので、そこにご興味おありの方は、また別の機会にぜひ、お願いいたします。

◇ 倉知志帆

今回は東京塾ですので、梅屋庄吉さんの関東での足跡とゆかりの地を追ってみました。長崎さるく君が出張でお供してくれました。機会をいただけて、楽しくフィールドワークでき勉強にもなりました。ありがとうございました。

◇ 佐々木信子（上野彦馬曾孫）

昨年の上野彦馬の孤独な作業から、今年はメール、Facebook、LINE で連絡を取りながらの協同作業で、不得手なものはすべて相方にお任せで原稿が仕上がりました。長崎のアメリカ領事館で石井筆子さんがグラント前大統領からいただいたサイン入りの写真、上野写真館撮影の台紙だったかな？と、楽しく想像しています。

◇ 佐藤正子

『龍馬伝』から坂本龍馬・福山雅治ファン～長崎 LOVER に。今年の当塾での目標は「長崎と東京の縁つなぎ」。今年は楠本イネの晩年の住処・麻布・六本木を巡りました。さて、来年はいかに。

◇ 末松康春（佐々木高行玄孫、伊藤博文玄孫、末松謙澄曾孫）

高祖父の佐々木高行については、この機会に勉強させてもらいました。ありがとうございました。

◇ 高山美枝子

久しぶりのグループでの共同作業という時間、楽しかったです。資料館へ行ったり、データをやり取りしたり、お電話でお話ししたり。ご一緒した塾生の方は上野彦馬さんのご子孫の方。若い頃、写真館に勤めていたこと、実家が彦馬さんの生誕地そばだったこともあり、何か時空を超えて繋がれた気がして嬉しかったです。

◇ 中村奈美

昨年は近代工業化の礎を築いた長崎人をとり上げましたが、今年は自身の仕事柄、医学に絡むことを行いたかった。どうしても医学発展には長崎の役割は大きく、特にシーボルトの功績は顕著である。しかし、彼を支えた日本人妻と彼を凌ぐ娘の存在も忘れてはならないと思い、今回テーマに関わらせていただいた。改めて楠本イネを注目してほしいと願う。

◇ 本間一之

地元（故郷）のことを深く知ることは、その地域の活性化や未来へのヒントを見つけることに必ずつながります。長崎伝習所の取り組みはまさにその一環だと思います。機会をいただいた歴代の長崎市長（長崎伝習所総長）および事務局・運営委員会の皆さまへ、この場をお借りして深く感謝申し上げます。そして、この取り組みの継続と発展を切に願っております。

渋谷・長崎歴史文化情報発信塾

塾長	倉持 基				
1	荒舩 裕子	21	すぎやま ゆうこ	41	
2	稲田 勝次郎	22	高山 美枝子	42	
3	上田 佳代子	23	田中 美枝子	43	
4	榎本 隆一郎	24	辻川 智子	44	
5	岡村 真理	25	朝長 修	45	
6	勝田 真幸	26	中尾 和美	46	
7	官梅 洋子	27	中村 淳	47	
8	木本 志帆	28	中村 直美	48	
9	倉知 志帆	29	中村 奈美	49	
10	幸若 知加子	30	西岡 秀子	50	
11	小曽根 克秀	31	本間 一之	51	
12	小曽根 淳二	32	増田 泰之	52	
13	小沼 百合子	33		53	
14	斎藤 達章	34		54	
15	阪出 清	35		55	
16	佐々木 信子	36		56	
17	佐藤 正子	37		57	
18	柴田 徹郎	38		58	
19	末松 康春	39		59	
20	菅 千歳	40		事務局員	東京事務所 田邊 愛理



つながり事業成果報告

若者向け特別講座 Me-revo

様々な分野で全国的に活躍する方の話を聴くことで、若者の自分の中の何かが触発され、地域や社会に目を向け自ら行動するきっかけづくりとするため、主に若い世代の市民を対象に先進的な取組を行っている方々を講師に招いた講座を開催しました。

令和6年度は計3回講座を開催し、延べ210名の方にご参加いただきました。

Me-revo
トップジニアに学ぶ
ジブン革命講座 ミーレボ

第1回 SWITCH to HOPE
社会の課題をみんなの希望へ変えていくー

講師 田口 一成

6/14(金) 18:30-20:30

会場 長崎市の町4-1 本館2階
長崎市庁舎多目的スペース

参加費 無料

募集期間 第1回(6月10日(金)～6月11日(土))
第2回(6月16日(金)～6月17日(土))
第3回(6月21日(金)～6月22日(土))

定員 各回150名

申込方法 申込フォームから申し込みください。定員に達した場合は抽選となります。抽選結果はメールで通知いたします。

お問い合わせ 長崎市市民参加推進課
電話 095-822-1125
メール info@me-revo.jp

Me-revo
トップジニアに学ぶ
ジブン革命講座 ミーレボ

第2回 “生きる”を、進化させる。相互扶助のこけらのかたち

講師 矢田 明子

9/20(金) 18:30-20:30

会場 長崎市の町4-1 本館2階
長崎市庁舎多目的スペース

参加費 無料

募集期間 第1回(6月10日(金)～6月11日(土))
第2回(6月16日(金)～6月17日(土))
第3回(6月21日(金)～6月22日(土))

定員 各回150名

申込方法 申込フォームから申し込みください。定員に達した場合は抽選となります。抽選結果はメールで通知いたします。

お問い合わせ 長崎市市民参加推進課
電話 095-822-1125
メール info@me-revo.jp

第1回

講師：株式会社ボードレス・ジャパン 代表取締役 田口 一成氏

テーマ：SWITCH to HOPE

ー社会の課題をみんなの希望へ変えていくー

講師プロフィール：

1980年生まれ、福岡県出身。早稲田大学在学中に米国ワシントン大学へビジネス留学。卒業後、(株)ミスミ（現 ミスミグループ本社）を経て、25歳でボードレス・ジャパンを創業。社会課題を解決するソーシャルビジネスのパイオニアとして、日経ビジネス「世界を動かす日本人50」、Forbes JAPAN「日本のインパクト・アントレプレナー35」、EY「アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー・ジャパン」に選出。2020年、カンブリア宮殿に出演。TEDx『人生の価値は何を得るかではなく、何を残すかにある』の再生回数は100万回を超える。著書『9割の社会問題はビジネスで解決できる』はベストセラーに。



第2回

講師：株式会社 CNC 代表取締役 矢田 明子 氏

テーマ：“生きる”を、進化させる。相互扶助のこれからのかたち

講師プロフィール：

島根県出雲市出身。父の死をきっかけにコミュニティナース着想。2014年島根大学医学部看護学科卒業後、自身も活動しながらコミュニティナーシングの担い手の育成を開始。2017年 Community Nurse Company 株式会社を設立し、コミュニティナーシングの社会実装を本格化。2020年一般社団法人 Community Nurse Laboratory を創業し学生への普及啓蒙を開始。2021年厚生労働省「重層的支援体制整備事業（参加支援事業）」調査事業 有識者委員。内閣官房「地方公共団体における多世代交流を通じて活性化するコミュニティづくりの具体化に向けた支援に関する調査研究事業」研究会委員をつとめる。「デジタル化社会の中長期的展望に係る調査研究」外部有識者。島根県雲南市に拠点を構えながら、全国の企業や自治体と連携し、コミュニティナーシングの社会実装を進めている。著書「コミュニティナース 一まちを元気にする“おせっかい”焼きの看護師」。2022年第10回アジア太平洋高齢者ケア・イノベーションアワード HOME CARE FOR AGEING-IN-PLACE 部門グランプリ受賞。



第3回

講師：株式会社電通 クリエーティブ・ディレクター/絵本作家キリーロバ・ナージャ

テーマ：6つの国4つの言葉で育って見えた発見と多様性のお話し

講師プロフィール：

ソ連（当時）レニングラード生まれ。両親の転勤とともに、6カ国（ロシア、日本、イギリス、フランス、アメリカ、カナダ）の地元校で教育を受けた。広告会社に入社後、様々な広告を企画し、国内外の賞を多数受賞。最近の仕事は、困っている人をアイデアで助けること。著書に「ナージャの5つのがっこう」、「パンツはかせのだいはつめい」（共に大日本図書）、「からあげビーチ」、「ヒミツのひだりききクラブ」、「じゃがいもへんなの」（共に文響社）、「6カ国転校生ナージャの発見」（集英社インターナショナル）がある。





若者まちづくりチャレンジ補助金成果報告

誰でもふらっと立ち寄れる コミュニティセルフカフェ「よりみち」

葛島 菜緒



■ 目的 ■

気軽に立ち寄れる場所づくりとしてコミュニティスペースを開くことで、なんとなく人とのつながりを求めている人や、自宅以外に居場所がほしい人、“誰か”と話したい人、誰かの話を聴きたい人、ほっと一息つきたい人等が、自分、そしてお互いの想いを満たせる空間を実現したいと思い、この事業の実施に至りました。

誰でもウェルカムな“カフェ”という空間にすることで、「若者×大人」「大人×子ども」「子ども×若者」等、世代や立場の壁を越えた“出逢い”や“つながり”が生まれ、様々な世界が広がっていくきっかけをつくることも目的のひとつとして考えてきました。



また長崎で活動する様々な団体(市民活動団体、ボランティア団体、NPO、企業等)の情報を提示



したり、コラボ企画を行ったりすることで、それを必要としている人の目に留まり、「各団体と利用者」や「団体同士」の“つながりづくり”や“活性化”につなげたいという思いもありました。

■ 活動内容 ■

誰もが気軽に立ち寄れるコミュニティスペースであり、人とつながれる機会、ほっと一息つける空間として月に二度場所を開きました。



この空間でそれぞれの時間を過ごす際のお供とし

て、お菓子や飲み物を提供する“セルフカフェ”形式を取ることで、よりゆっくりと過ごしていただける環境をつくりました。

またつながりづくりや活動の周知、活性化につなげるため、長崎で活動する各団体(市民活動団体、ボランティア団体、NPO、企業等)の情報をコミュニティスペース内に提示しました。

各オープン日には、ワークショップやお話会、ミニコンサートやアロママッサージ等、コラボ企画も取り入れました。



■ 活動の成果 ■

SNS(Instagram)の投稿を通して、今回の事業実施を知ってくださった長崎新聞社様に取材依頼をいただき、初回オープンの前日の新聞に記事を掲載していただいたことで、遠方からも足をお運びいただいたり、協賛金のお申込みをいただいたりと大きな反響がありました。



2024年11月～2025年2月までの4ヶ月間、計8回のオープンで、延べ118名の方にコミュニティセルフカフェ「よりみち」を利用いただきました。

さまざまな思いや状況を抱えた方々にも足を運んでいただき、「こういった場所を探していました」「必要な場所・時間です」といった嬉しいお言葉をいただきました。中には期間中何度も来店してくださった常連様や、ご都合がつかずにご

来店いただくことができなかった方もおり、引き続きの開催を望んでくださるお声もたくさんいただきました。



また「よりみち」を訪れたことでその日初めて出逢った方々が、いつの間にか仲良く話していたり、話していると実はつながっていたことがわかって喜んでいたり、「何か一緒に企画しよう!」と話が進んでいたり、まさに思い描いていた“出逢い”の空間が広がる景色を目にすることができました。

■ 今後の事業展開や感想等 ■

今回は事業を応援してくださる方に「よりみちチケット」をご購入いただくことで、ご来店いただいた方々に無料で飲食をしていただく仕組みを取り入れました。そうすることで、さまざまな事情を抱えながらカフェを利用してくださる方々から代金をいただくことなく、必要経費を賄うことができ、よりお立ち寄りいただきやすい空間をつくれたのではないかと思います。この仕組みを土台としながら少しずつ見直していくことで、自己資金によるオープンを続けていきたいと考えています。

本事業の申請時には、8日間で延べ50名の方々にご来店いただくことを目標にしておりましたが、これを大幅に上回る方々にご来店いただき、嬉しく思うとともに、改めてこういった空間に対する需要の高さや必要性を強く感じる機会となりました。みなさまの声にお応えし、これからも続けていけるよう、今後は個人でなくチームとしてこういった空間づくりに取り組んでいきたいと感じました。



アフリカの国ってどんな国だろう？

代表者 松本 海奈



■ 目的 ■

主催者は実際に周囲にいるアフリカ出身者からうけるアフリカに対するイメージが、日本でイメージされているアフリカとは大きく異なる点があることを今まで感じていた。今後、実際にアフリカを訪問し帰国後に実際の現地の様子を日本で伝えたいと考えている。今、アフリカ訪問の前に長崎でアフリカと日本のかけ渡しが何かできないかと考え、この事業を企画した。

この事業を行う目的は 3 つある。まず1つ目の目的は子供たちに実際にアフリカ出身者と出会ってもらい、アフリカの生活について知ってもらうことだ。遠いアフリカの国々について、日本からはなかなか正しい情報が得られないのが現状である。実際にアフリカに住む同世代の小学生がどのような生活を送っているのかを知ること、長崎で暮らす自分達と大きく違う点もあれば、同じ点もあることに気づくことを目標にしている。

2つ目の目的は、新しい事を知る楽しさを感じることである。「へえそうなんだ」という気づきを増やし、「楽しい」と感じる事により、「より物事を知りたい」という気持ちが沸くと考える。今回の事業を通して、1つでも子供たちが「へえそうなんだ」と感じ

ることが目標である。

3 つ目の目的は、ステレオタイプの形成を防ぐ事である。実際にステレオタイプについて卒論を書いた知人がおり、黒人＝怖いと思われるという事実に衝撃を受けた。調査を数値化したわけではないが、小中高の ALT は白人やアジア系人が多いと感じる。この目的は今回のイベント一回で達成できるとは考えていない。しかし、確実にこの目的を達成するためのスモールステップとなる。

対象を小学生とその保護者と設定した理由は、小学生の好奇心旺盛さと、その保護者にも海外のことをもっと知ってもらいたいと考えるからである。観光地でアルバイトをしていた際、多くの修学旅行生や外国人観光客を見かけた。中学生の方が英語を話せるにも関わらず、小学生の方が積極的に外国人に話しかけていた。そのため知らないことを知る今回のイベント対象は、小学生が適当であると考えた。また、小学生の子供たちの行動や経験は親の考え方が大きな影響を与えている場合が多い。そのため保護者にも同時に学んでもらう事がより効果を上げると考え、親子参加を設定した。

■ 活動内容 ■

①ケニア出身者に実際に来てもらい、通訳を介しながらケニアについて知る。まずケニアについての基本情報（国旗、場所、大きさ、気温等）について紹介する。

②ケニアの生活についてより深く紹介するが、内容は小学生の日常に溢れているものを取り上げる。（学校生活、食事、家、遊び等）ただ紹介を聞いてインプットするだけでは集中力が持たないため、クイズを使用して小学生参加型で行う。今回は Kahoot!というオンラインのウェブサイトを使用して、クイ

ズを作成する。

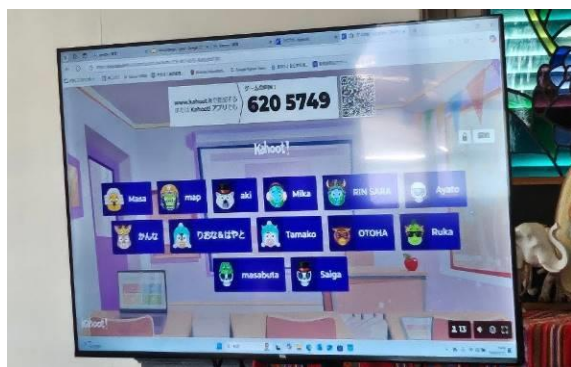
③スワヒリ語をみんなで学ぶ。

※開催日時等

日時:2024 年 12 月 22 日(日) 14:00~15:30

場所:地球館 2 階

参加人数:18 名+保護者



写真② Kahoot!クイズの様子

■ 活動の成果 ■

参加者は全部で子ども18名+保護者となり、予定よりも多くの人足が運んでくれた。

・目的1に対する成果

ケニアの簡単な説明の中で野生動物を間近で見ることができると紹介したからか、馬に乗って登校すると回答した子どもも一定数いた。しかし正解を見て長崎で住む自分たちと同じようにバスや徒歩で通うことを知り、驚きとともに「私たちと一緒にだね」などの気づきの言葉も見受けられた。Kahoot!を使用したのが初めにどのように Kahoot!を使用するのか、簡単な練習問題を行ったことで子どもたちがどのように使用するのか理解することができ、本クイズをより楽しんでもらったように感じた。Kahoot!を利用したことは初めてであったようだがこの取り組みは保護者も満足していた。即時に解答が出ること、即時に回答者のランキングも出ることから通常のクイズ形式よりもより活発に活動ができた。日本ではまだあまり活用されていない形式であるが十分な効果を発揮できた。また最後のケニ

アの言葉であるスワヒリ語を学ぶ時間に、子供たちは、特に生き生きし顔をあげて声を出して真似していたので、話すなどの動きのある活動がやはり効果的であると実感した。

「ありがとう」という意味のスワヒリ語をイベント後、帰る際に言って帰る子もあり、嬉しかった。

・目的2に対する成果

活動後ケニア出身の講師のもとに質問したいと列を作っていた。具体的には「ケニアにはランドセルはあるの?」「ケニアの国旗は何を意味してるの?」などがあつた。インターネットと通じ AR を活用した地球儀を準備していたが、講演後に子ども達が地球儀の周りに集まってアフリカはもちろん他の国々の情報を見ていた。子供たちの「もっと知りたい」という気持ちがしっかりと行動に繋がっていた。

・目的3に対する成果

事業中の子どもの様子や事業後の保護者アンケートから、「黒人=怖い」という印象をもって今イベントの活動を終了した子ども、保護者はいなかった。ネガティブステレオタイプを形成しないことに少しは貢献できた。

■ 課題と今後の事業展開 ■

一定数の親子連れに需要があることを今回のイベントを通して実感できたため、次回以降も今回のようなイベントを継続したいと思う。実施後のアンケートでは「実際にこのようなイベントがあればまた参加したい」と100%の保護者が回答している。また今回のイベント準備を進めていると「ほかの年代を対象に行ってほしい」という意見もあった。小学生以外を対象に行うことも今後の展開の視野に入れたい。次回以降は今回のイベントとの相違が必要となるためアイデア出しを工

夫する必要があると考える。子ども達はクイズに回答する時、スワヒリ語を話す時が最も活発的であった。今後も「触る・話す」などの体を動かし、五感を刺激する活動を中心にしたい。

また開催する場所について、今回のイベントは参加者が想定以上となったため、会場の都合上子どもと保護者を別々に座らせることとなった。子どものみで席に座わる形式はあまりよくないかと感じ、心配であったが予想外に子ども達は集中して聞いていた。途中で集中力が切れた時にドリンクを触ったりする子もいたため、今後行うことがあれば公民館など飲食の出ない場所を使用したい。尚、今回のイベントの対象年齢は、小学1年生から6年生までと幅が広がった。低学年と高学年の生徒では集中力・興味関心に大きな差が出ることを実感した。対象年齢より細かく絞ることも必要になると実感した。

今回このイベントを実施することは主催者にとっても大きな学びとなった。最初は不安が大きかったが多くの方々に協力いただき無事に開催できたことは自信につながった。改善点等もわかったので次回はさらに良いイベントにしたい。今後、微力ではあるが長崎の子ども達や長崎の人々とアフリカの橋渡しができればと強く考えた。



資 料 編

塾卒業者数の変遷

〔ハイテク塾・長崎伝習所〕

昭和61年度	塾長	卒業生数
海洋開発塾	黒瀬 正行	23名
流通塾	宮原 泰治郎	24名
バイオ塾	鴨川 秀俊	31名
工業システム開発塾	高岡 則彦	22名
メカトロニクス塾	平田 泰郎	21名
海洋システム塾	利光 一紀	23名
都市デザイン塾	岡林 隆敏	26名
観光開発塾	岩永 明士	21名
建築塾	鉄川 進	20名
基礎講座塾	伝習所事務局	33名
総 数	10塾	244名

昭和62年度	塾長	卒業生数
海洋開発塾	高橋 和雄	17名
AI塾	谷口 良輔	15名
マイコン制御塾	小笹 裕	12名
建築塾	池田 賢一	18名
ニュービジネス研究塾	久保 一雄	27名
都市デザイン塾	浜永 孝雄	32名
イベント研究塾	田上 俊一	25名
来庵交流塾	ブライアン・パークガフニ	27名
'87紅塾	竹中 晴美	23名
長崎食文化塾	本田 時夫	21名
総 数	10塾	217名

昭和63年度	塾長	卒業生数
ニュービジネス研究塾	下山 重次	28名
長崎グランドデザイン塾	黒瀬 正行	17名
ニューメディア研究塾	木室 和孝	14名
長崎都市探検塾	吉岡 宣孝	23名
シティーリニューアル塾	大草 一俊	22名
来庵交流塾	林 敏幸	20名
'88紅塾	竹中 晴美	24名
長崎CM塾	中村 聡	14名
塾「花集」	北郷 雅子	15名
伝習所おまかせ塾	伝習所事務局	一名
総 数	10塾	177名

平成元年度	塾長	卒業生数
カード研究塾	山下 国広	22名
経営活性塾	前田 慎一郎	20名
造船塾	坂本 伸慈	17名
都市演出研究塾	大草 一俊	46名
長崎工芸塾	竹田 克人	19名
風力発電研究塾	平井 隆市	25名
“まちづくりと商店街”塾	佐藤 秀人	27名
総 数	7塾	176名

平成2年度	塾長	卒業生数
風力発電研究塾	平井 隆市	26名
長崎・サウンドデザイン塾	吉岡 宣孝	19名
都市夢塾	林 一馬	46名
長崎工芸塾	浜脇 昌盛	17名
長崎観光・物産塾	下山 重次	21名
港元気塾	平山 敏	28名
三重トピア塾	田川 茂	16名
総 数	7塾	173名

〔長崎伝習所〕

平成3年度	塾長	卒業生数
長崎・サウンドデザイン塾	吉岡 宣孝	23名
商店GUYSクリエイティブ・ネットワーク塾	山下 国広	20名
こどもたちの夢広場塾	猪山 勝利	32名
都市夢塾Ⅱ	渡部 雅弘	56名
来庵交流塾	岡部 道夫	25名
リサイクル文化研究塾	糸山 景大	45名
稲佐山元気塾	松原 一成	16名
総 数	7塾	217名

平成4年度	塾長	卒業生数
リサイクル文化研究塾	糸山 景大	37名
サウンドデザイン塾	吉岡 宣孝	18名
こどもたちの夢広場塾	猪山 勝利	46名
長崎都市夢塾	上野 皓士	46名
国際交流塾	牛嶋 洋一郎	82名
居留地未来塾	西 武宏	47名
港再生塾	浦川 貴隆	29名
総 数	7塾	305名

平成5年度	塾長	卒業生数
長崎都市夢塾	宮原 和明	53名
リサイクル文化研究塾	糸山 景大	38名
居留地未来塾	黒崎 邦博	41名
国際交流塾	牛嶋 洋一郎	100名
エコ・デザイン研究塾	渡部 雅弘	37名
遊びデザイン塾	藍葉 忠之	18名
文化・地域活性化塾	猪山 勝利	25名
ふれあい福祉21塾	牛津 信忠	35名
総 数	8塾	347名

平成6年度	塾長	卒業生数
国際交流塾	牛嶋 洋一郎	110名
おんな達の素朴な？塾	磯田 朋子	36名
NG発見塾	有馬 一郎	26名
よか・余暇・環境デザイン塾	前田 卓郎	19名
長崎表現塾	横田 嗣	18名
いのち・くらし・共育塾	山本 いま子	31名
都夢創野塾	藍葉 忠之	15名
文化ニューウェイブ塾	猪山 勝利	23名
エコ・デザイン塾	渡部 雅弘	27名
リサイクル文化研究塾	糸山 景大	33名
居留地未来塾	宮本 博文	41名
都市夢塾	野田 茂	32名
総 数	12塾	411名

平成7年度	塾長	卒業生数
都市夢塾	阿野 史子	40名
エコ・デザイン研究塾	渡部 雅弘	22名
国際交流塾	牛嶋 洋一郎	166名
出島ルネッサンス塾	松原 一成	17名
ソフトエネルギー研究塾	平井 隆市	27名
フィールド自遊塾	前田 卓郎	28名
NG発見塾	有馬 一郎	25名
上海塾	藍葉 忠之	28名
おんな達の素朴な？塾	二宮 節子	32名
平成の海援隊塾	柴田 恵司	30名
都夢創野塾	浜田 勇	34名
いのち・くらし・共育塾	山本 いま子	22名
リサイクル文化研究塾	糸山 景大	21名
総 数	13塾	492名

平成8年度	塾長	卒業生数
都市夢塾	山口 美智子	39名
リサイクル文化研究塾	糸山 景大	23名
国際交流塾	牛嶋 洋一郎	263名
エコ・デザイン研究塾	杉山 和一	22名
いのち・くらし・共育塾	山本 いま子	41名
フィールド自遊塾	前田 卓郎	25名
おんな達の素朴な？塾	森 郁子	40名
都夢創野塾	柴田 貞志	15名
出島ルネッサンス塾	松原 一成	24名
平成の海援隊塾	早田 猛	29名
21世紀長崎産品塾	徳勝 盛敏	19名
ドリーム&エンジョイライブラリー塾	川口 綾子	58名
総 数	12塾	598名

平成9年度	塾長	卒業生数
都市夢塾	中山 千賀子	35名
リサイクル文化研究塾	糸山 景大	32名
エコ・デザイン研究塾	杉山 和一	22名
国際交流塾	牛嶋 洋一郎	290名
出島ルネッサンス塾	松原 一成	22名
ドリーム&エンジョイライブラリー塾	川口 綾子	64名
NAGASAKIキラメキ☆シネマ塾	溝口 昌喜	18名
なんでんかんでん都市(まち)のデジタル探検隊塾	小久保 徳子	55名
総 数	8塾	538名

平成10年度	塾長	卒業生数
坂のまちなんでんかんでん研究塾	栗原 正紀	60名
平成の紅塾	竹中 晴美	16名
コーポラティブ住まい塾	塩田 真由美	21名
NAGASAKIキラメキ☆シネマ塾	溝口 昌喜	18名
ネットワークコミュニティ「都市のデジタル探検隊塾」	小久保 徳子	38名
夢いっぱい！としょかん塾	尾崎 寿美	34名
出島ルネッサンス塾	松原 一成	19名
国際交流塾	牛嶋 洋一郎	295名
総 数	8塾	501名

平成11年度	塾長	卒業生数
ごみとくらし研究塾	山本 幸代	46名
長崎くんち塾	安達 征治	87名
記憶の中の長崎案内塾	太田 恭子	29名
坂のまちなんでんかんでん研究塾	栗原 正紀	56名
NAGASAKIキラメキ☆シネマ塾	溝口 昌喜	17名
ネットワークコミュニティ「インターネット探検塾」	小久保 徳子	52名
夢いっぱい！としょかん塾	尾崎 寿美	48名
出島ルネッサンス塾	松原 一成	18名
総 数	8塾	353名

平成12年度		塾長	卒業生数
長崎ぶらぶら踊り塾	「行」	宗 保孝	78名
バグパイプ塾	「行」	廣高 信彦	26名
ヤンコ踊り塾	「行」	陳 東華	53名
歩いて楽しめ長崎まちづくり塾	「市」	矢川 正男	29名
エコシティ研究塾	「市」	宮原 和明	33名
ごみとくらし研究塾	「市」	山本 幸代	41名
記憶の中の長崎案内塾	「市」	藤城 薫	22名
総 数		7塾	282名

※平成12年度から従来の「市民提案型」の塾に、「行政提案型」の塾を加え、市民と行政が協働による、魅力あるまちづくり事業を展開している。
「市民提案型」を「市」、「行政提案型」を「行」と表記している。

平成13年度		塾長	卒業生数
観光長崎バリアフリー創造塾	「市」	後藤 恵之輔	26名
わが町の達人・名人さがし塾	「市」	入枝 一男	21名
エコシティ研究塾	「市」	宮原 和明	33名
歩いて楽しめ長崎まちづくり塾	「市」	矢川 正男	32名
出島事始め塾	「行」	宮川 雅一	19名
にいまるまるいち 2001女性塾	「行」	脇山 順子	18名
長崎 ^{げんき} 源木発見塾	「行」	赤瀬 憲市	32名
くらしと環境研究塾	「行」	木村 一生	53名
長崎ぶらぶら踊り塾	「行」	宗 保孝	116名
ヤンコ踊り塾	「行」	陳 東華	80名
バグパイプ塾	「行」	廣高 信彦	20名
総 数		11塾	450名

平成14年度		塾長	卒業生数
2002長崎サウンドデザイン塾	「市」	吉岡 宣孝	14名
命とからだ探検隊塾	「市」	安日 泰子	61名
エコな街づくり研究塾	「市」	李 桓	35名
観光長崎バリアフリー創造塾	「市」	後藤 恵之輔	28名
わが町の達人・名人さがし塾	「市」	入枝 一男	25名
「長崎刺繍」再発見塾	「行」	嘉勢 路子	19名
長崎の染塾	「行」	砂崎 素子	28名
長崎やけんステンドグラス塾	「行」	橋口 都	17名
河川環境研究塾	「行」	富工 妙子	45名
ごみ夢中塾	「行」	矢野 博巳	32名
出島事始め塾	「行」	宮川 雅一	33名
にいまるまるいち 2001女性塾	「行」	脇山 順子	15名
げんき 長崎源木発見塾	「行」	赤瀬 憲市	45名
長崎ぶらぶら踊り塾	「行」	宗 保孝	77名
ヤンコ踊り塾	「行」	陳 東華	84名
バグパイプ塾	「行」	廣高 信彦	28名
総 数		16塾	586名

平成15年度		塾長	卒業生数
活き活き園芸長崎塾	「市」	井石 八千代	44名
No!ドメスティック・バイオレンス塾	「市」	悦 晴美	32名
長崎まちづくり事業化研究塾	「市」	増倉 康久	25名
長崎ビジネス活性化塾	「市」	大崎 孝徳	34名
環境ネットワークながさき塾	「市」	宮原 和明	41名
長崎銀細工研究塾	「行」	酒井 美枝	20名
長崎陶芸復興塾	「行」	藤原 清一	33名
「長崎刺繍」再発見塾	「行」	嘉勢 路子	27名
長崎の染塾	「行」	平田 素子	33名
長崎やけんステンドグラス塾	「行」	小笹 悦二	16名
新・竹取物語塾	「行」	森 昇	26名
生ごみシェイパーズ塾(生ごみ減らし隊)	「行」	山口 八重子	22名
河川環境研究塾	「行」	富工 妙子	45名
出島事始め塾	「行」	宮川 雅一	31名
総 数		14塾	429名

平成16年度		塾長	卒業生数
長崎チェス塾	「市」	牛嶋 洋一郎	31名
「いつも青春」塾	「市」	田口 育子	14名
長崎の歴史再発見塾	「市」	小嶺 昭典	38名
No!ドメスティック・バイオレンス塾	「市」	悦 晴美	28名
長崎まちづくり事業化研究塾	「市」	矢川 正男	30名
環境ネットワークながさき塾	「市」	宮原 和明	45名
長崎の食 探検塾	「行」	穴戸 直嗣	19名
生きもの再生塾	「行」	引地 秀司	44名
新・竹取物語塾(平成17年度から長崎節木塾に変更)	「行」	森 昇	28名
生ごみシェイパーズ塾(生ごみ減らし隊)	「行」	山口 八重子	63名
総 数		10塾	340名

平成17年度		塾長	卒業生数
長崎の産業文化今昔物語塾	「市」	余語 保博	25名
長崎弁研究塾	「市」	田川 文夫	41名
メディエーション(対話術)研究塾	「市」	梅枝 眞一郎	22名
長崎チェス塾	「市」	牛嶋 洋一郎	25名
長崎の歴史再発見塾	「市」	小嶺 昭典	37名
オブジェ塾	「行」	川西 庄次	17名
長崎の食 探検塾	「行」	穴戸 直嗣	31名
生きもの再生塾	「行」	引地 秀司	36名
生ごみシェイパーズ塾(生ごみ減らし隊)	「行」	山口 八重子	73名
総 数		9塾	307名

平成18年度		塾長	卒業生数
ちよいわる団塊世代の面白発見塾	「市」	新田 照夫	17名
長崎)月の文化研究塾	「市」	山崎 譲	16名
舞台裏おじゃま塾	「市」	枅田 尚子	13名
長崎の産業文化今昔物語塾	「市」	余語 保博	23名
長崎弁研究塾	「市」	田川 文夫	42名
メディエーション研究塾(対話による問題解決術)	「市」	梅枝 眞一郎	33名
市民オブジェ塾	「行」	川西 庄次	17名
パートナーシップ塾	「行」	西岡 由香	13名
長崎出島楽坊塾	「行」	林 弘美	43名
総 数		9塾	217名

平成19年度		塾長	卒業生数
長崎うんすんかるた塾	「市」	大場 勝彦	31名
新長崎市の史跡探訪塾	「市」	田端 光男	54名
長崎ステークホルダー会議塾	「市」	杉山 和一	41名
CM伝塾	「市」	吉光 正絵	25名
ながさき・ぶらんど創新(イノベーション)塾	「市」	谷口 竜一	42名
残しておきたい長崎ポートレート塾	「市」	矢川 正男	26名
長崎〓月の文化研究塾	「市」	山崎 譲	12名
舞台裏おじゃま塾	「市」	栴田 尚子	12名
メディエーション研究塾～紛争解決から学ぶ快適コミュニケーション術～	「市」	梅枝 眞一郎	25名
市民オブジェ塾	「行」	川西 庄次	16名
パートナーシップ塾	「行」	西岡 由香	17名
長崎出島楽坊塾	「行」	西崎 寛弘	46名
総 数		12塾	347名

平成20年度		塾長	卒業生数
発見！実現！体験学習塾	「市」	吉田 伸吾	46名
おはなし音楽塾～親子で楽しむ音楽ものがたり～	「市」	池田 祐希	18名
「エコ名人を探せ！」塾	「市」	佐藤 恵	23名
長崎うんすんかるた塾	「市」	大場 勝彦	38名
新長崎市の史跡探訪塾	「市」	田端 光男	56名
長崎ESTステークホルダー会議塾	「市」	杉山 和一	33名
ながさき・ぶらんど物語(イノベーション)塾	「市」	谷口 竜一	24名
CM伝塾	「市」	吉光 正絵	32名
総 数		8塾	270名

平成21年度		塾長	卒業生数
川さるく森・川・里・海 塾	「市」	兵働 馨	36名
長崎洋館音楽舞踏塾	「市」	槇山 智子	24名
発見！ながさき遺産塾	「市」	川瀬 智子	18名
発見！実現！体験学習塾	「市」	吉田 伸吾	53名
「エコ名人を探せ！」塾	「市」	佐藤 恵	26名
「龍馬伝と幕末人物」塾	「行」	三丸 正紀	59名
在京長崎応援団塾～長崎を外から見る～	「行」	深野 浩平	30名
総 数		7塾	246名

平成22年度		塾長	卒業生数
「ながさきポルトガル」知る知る塾	「市」	山口 克己	39名
長崎ビューポイント探訪塾	「市」	村田 明久	29名
川さるく 森川里海塾	「市」	兵働 馨	21名
長崎洋館音楽舞踏塾	「市」	槇山 智子	26名
発見！ながさき遺産塾	「市」	川瀬 智子	27名
「龍馬伝と幕末人物」塾	「行」	三丸 正紀	54名
在京長崎うまかもん塾	「行」	片山 六郎	49名
総 数		7塾	245名

平成23年度		塾長	卒業生数
ナガサキポルトガルシルシル塾	「市」	山口 克己	27名
長崎ビューポイント探訪塾	「市」	村田 明久	21名
坂のまち長崎なのに自転車塾	「市」	村里 静則	60名
孫文・梅屋庄吉と明治大正長崎事情塾	「市」	村崎 春樹	41名
長崎の町ねこ調査隊塾	「市」	中島 由美子	30名
在京長崎うまかもん塾	「行」	片山 六郎	25名
総 数		6塾	204名

平成24年度		塾長	卒業生数
長崎の町ねこ調査隊塾	「市」	中島 由美子	31名
孫文・梅屋庄吉と明治大正長崎事情塾	「市」	村崎 春樹	33名
ながさきで物語をつくろう塾	「市」	重野 裕美	15名
東京出島塾	「行」	大瀬良 亮	29名
在京長崎・感・考・塾	「行」	田尾 正行	19名
総 数		5塾	127名

平成25年度		塾長	卒業生数
ながさきで物語をつくろう塾	「市」	重野 裕美	10名
長崎 町おもい塾	「市」	中川 香菜	16名
キリスト教関連遺産調査塾	「市」	城田 征義	38名
東京出島塾	「行」	大瀬良 亮	31名
在京長崎・感・考・塾	「行」	田尾 正行	21名
総 数		5塾	116名

平成26年度		塾長	卒業生数
キリスト教関連遺産調査塾	「市」	日宇 孝良	34名
コントラクトブリッジ塾	「市」	牛嶋 洋一郎	36名
東京で長崎ーッ！と叫ぶ塾	「市」	黒沢 永紀	33名
総 数		3塾	103名

平成27年度		塾長	卒業生数
コントラクトブリッジ塾	「市」	牛嶋 洋一郎	48名
アートマニアながさき塾	「市」	内藤 修子	42名
長崎ビワ感動塾	「市」	井上 智子	25名
高島グラバー別邸調査・研究塾	「市」	浅尾 賢次	14名
わが町公園de元気塾	「市」	吉村 正春	17名
東京で長崎ーッ！と叫ぶ塾	「市」	黒沢 永紀	44名
長崎検定塾～もっと長崎ば知ろう～	「市」	小岩 寿樹	31名
総 数		7塾	221名

平成28年度		塾長	卒業生数
アートマニアながさき塾	「市」	内藤 修子	45名
長崎びわ感動塾	「市」	井上 智子	25名
高島グラバー別邸調査・研究塾	「市」	浅尾 賢次	13名
わが町公園de元気塾	「市」	吉村 正春	16名
野母崎夢塾	「市」	三浦 豪介	21名
長崎こども社中塾～空き家deこどもの城づくり～	「市」	大西 博子	10名
長崎検定塾～もっと長崎ば知ろう～	「市」	小岩 寿樹	35名
総 数		7塾	165名

平成29年度		塾長	卒業生数
野母崎夢塾	「市」	三浦 豪介	16名
長崎こども社中塾～空き家deこどもの城づくり～	「市」	大西 博子	13名
アースダイバー琴海塾	「市」	鈴木 飛鳥	15名
和華蘭(わからん)研究塾～長崎よかもん再発見～	「市」	高山 美枝子	83名
総 数		4塾	127名

平成30年度		塾長	卒業生数
ながさきドローン塾	「市」	平塚 健一郎	25名
街道再発見塾	「市」	岩永 忠康	23名
ネットワーク型高島地域創造塾	「市」	小村 秀蔵	15名
和華蘭研究塾	「市」	高山 美枝子	84名
長崎・野母半島パワースポット発信塾	「市」	中村 奈美	30名
総 数		5塾	177名

令和元年度		塾長	卒業生数
ながさき こと(言)・おと(音)塾	「市」	西村 公美子	13名
ながさき未来塾	「市」	野口 美砂子	51名
のもぎき自然塾	「市」	山本 春菜	16名
ながさきドローン塾	「市」	平塚 健一郎	42名
長崎・野母半島パワースポット発信塾	「市」	中村 奈美	30名
総 数		5塾	152名

令和2年度		塾長	卒業生数
令和高島未来塾	「市」	木下 美佐子	6名
長崎トラフグ応援隊塾	「市」	多良 敏男	10名
のもぎき自然塾	「市」	山本 春菜	11名
ながさき未来塾	「市」	野口 美砂子	57名
長崎・野母半島パワースポット発信塾	「市」	中村 奈美	32名
総 数		5塾	116名

令和3年度		塾長	卒業生数
知る！見る！食べる！！滑石ふるさと歴史塾	「市」	田川 善史	12名
長崎 Baby・Kids LOVERS塾	「市」	碓 ちひろ	34名
長崎を舞台にショートショート塾	「市」	長野 大生	25名
のもぎき自然塾	「市」	山本 春菜	12名
ながさき未来塾	「市」	野口 美砂子	39名
総 数		5塾	122名

※長崎トラフグ応援隊塾は、諸事情により途中解散

令和4年度		塾長	卒業生数
長崎スコットランド交流塾	「市」	高比良 則安	20名
地域芸術を愛でる塾	「市」	青柳 智子	8名
Barの楽しみ方塾	「市」	川道 寿	16名
たびぶたい・のりもの塾	「市」	菊池 将成	4名
長崎 Baby・Kids LOVERS塾	「市」	碓 ちひろ	27名
長崎を舞台にショートショート塾	「市」	長野 大生	30名
総 数		6塾	105名

令和5年度		塾長	卒業生数
ながさき山城・砦 探検魅力発信塾	「市」	山喜 邦次	15名
コッキル(꽃길)日韓未来塾	「市」	平野 加奈	12名
長崎のりもの塾	「市」	菊池 将成	11名
Barの楽しみ方塾	「市」	川道 寿	17名
長崎スコットランド交流塾	「市」	高比良 則安	23名
渋谷・長崎歴史文化情報発信塾	「市」	倉持 基	47名
総 数		6塾	125名

令和6年度		塾長	卒業生数
「はじめて」の地域活動やってみよう塾	「市」	林田 慎一	11名
ながさき山城・砦 探検魅力発信塾	「市」	山喜 邦次	15名
渋谷・長崎歴史文化情報発信塾	「市」	倉持 基	32名
総 数		3塾	58名
卒業塾・卒業者数総計		309塾	10,386名

フォローアップ塾の概要

目 的：市民のまちづくりに関する研究、実践活動の振興を図り、もって長崎伝習所事業の目的である市民と行政のネットワークの形成に寄与するため、まちづくり市民団体に対し、長崎伝習所フォローアップ補助金(以下「補助金」という。)を交付する

概 要：長崎伝習所「塾」事業において過去に採択されたテーマについて研究、実践活動を行うことを規約等に定めた団体で、かつ次の各号の全部に該当する団体をいう。

- (1)その構成員が 10 名以上であるもの
- (2)年間を通して定期的な活動をする見込みのあるもの
- (3)その活動が公益的かつ人材育成に寄与するもの

沿 革：平成 6 年度に制度を創設「長崎伝習所まちづくり市民団体活動費補助金」、平成 20 年度に補助率などを改定し、名称も「長崎伝習所フォローアップ補助金」とした。

名 称	長崎伝習所フォローアップ補助金
補 助 金 額	1 団体 1 回目 20 万円を限度
	1 団体 2 回目 10 万円を限度
補 助 制 限	補助対象経費から当該事業に係る収入を差し引いたものの 4/5 以内
	1 団体 2 回限り

【 交 付 実 績 】

年 度	塾 名
H8	居 留 地 未 来 塾
H8	上 海 塾
H8	N G 倶 楽 部
H8	ソ フ ト エ ネ ル ギ ー 研 究 セ ン タ ー
H9	N G 倶 楽 部
H9	ソ フ ト エ ネ ル ギ ー 研 究 セ ン タ ー
H9	平 成 の 海 援 隊 塾
H9	都 夢 創 野 塾
H10	平 成 の 海 援 隊 塾
H10	リ サ イ ク ル 文 化 研 究 塾
H11	国 際 交 流 塾
H12	国 際 交 流 塾
H12	長 崎 く ん ち 塾
H12	NAGASAKI キラメキ☆シネマ塾
H12	夢 い っ ぱ い ！ 図 書 館 塾
H12	出 島 ル ネ ッ サ ン ス 塾
H13	長 崎 く ん ち 塾
H13	夢 い っ ぱ い ！ 図 書 館 塾
H13	出 島 ル ネ ッ サ ン ス 塾
H14	ご み と く ら し 研 究 塾
H14	く ら し と 環 境 研 究 塾
H14	歩 いて 楽 し め ま ち づ く り 塾
H15	ご み と く ら し 研 究 塾
H15	く ら し と 環 境 研 究 塾
H15	観 光 長 崎 ハ リ ア フ リ - 創 造 塾
H15	わ が 町 の 達 人 ・ 名 人 探 し 塾
H15	長 崎 ぶ ら ぶ ら 踊 り 塾
H15	ヤ ン コ 踊 り 塾
H15	バ グ パ イ プ 塾
H16	観 光 長 崎 ハ リ ア フ リ - 創 造 塾
H16	わ が 町 の 達 人 ・ 名 人 探 し 塾
H16	ヤ ン コ 踊 り 塾

H16	河川環境研究塾
H16	出島事始め塾
H17	河川環境研究塾
H17	出島事始め塾
H17	No！ドメスティック・バイオレンス塾
H17	長崎まちづくり事業家研究塾
H17	環境ながさきネットワーク塾
H17	長崎節木塾
H18	No！ドメスティック・バイオレンス塾
H18	長崎まちづくり事業家研究塾
H18	環境ながさきネットワーク塾
H18	長崎節木塾
H18	長崎チェス塾
H18	長崎の歴史再発見塾
H18	長崎の食 探検塾
H18	生きもの再生塾
H18	生ごみシェイパーズ塾
H19	長崎チェス塾
H19	長崎の食 探検塾
H19	生ごみシェイパーズ塾
H19	ちょいわる団塊世代の面白発見塾
H19	長崎弁研究塾
H20	残しておきたい長崎ポートレート塾
H20	舞台裏おじゃま塾
H20	メディエーション研究塾
H21	残しておきたい長崎ポートレート塾
H21	長崎うんすんかるた塾
H21	長崎 EST ステークホルダー会議塾
H21	長崎イノベーション塾
H21	CM伝塾
H21	おはなし音楽塾
H22	長崎 EST ステークホルダー会議塾
H22	長崎イノベーション塾
H22	おはなし音楽塾
H22	「エコ名人を探せ！」塾

H23	川さるく森川里海塾
H23	長崎洋館音楽舞踏塾
H23	「エコ名人を探せ！」塾
H24	ナガサキポルトガルシルシル塾
H24	長崎ビューポイント探訪塾
H25	長崎の町ねこ調査隊塾
H29	わが町公園 de 元気塾
H30	わが町公園 de 元気塾
R3	令和高島未来塾
R4	令和高島未来塾



若者まちづくりチャレンジ補助金

目的

長崎市内で行う、若者が中心となって取り組む、地域の活性化や魅力的なまちづくりにつながる事業を支援します。この補助金を活用し活動することで、若者が市民活動へ参加するきっかけとし、これからのまちづくりの担い手・リーダーとして活躍していくことを目的としています。

対象

以下のすべての条件を満たす個人又は団体（グループ）が対象になります。

- ・長崎市民又は長崎市に通勤通学している者
- ・申請者（団体にあっては代表者）が若者（18歳～29歳）
- ・団体の場合、過半数が若者であること
- ・事務局との連絡調整をスムーズに行えること

補助対象事業

若者の自由な発想で以下の要件を満たすものを対象事業とします。

- ・長崎市内で行う取り組み
- ・地域活性化やまちづくりにつながる取り組み
- ・新しい取り組み（すでに行っている事業ではない）
- ・提案者や協力者、参加者もみんながワクワクする取り組み



名 称	若者まちづくりチャレンジ補助金
補 助 金 額	・10万円未満…書類審査
	・10万円以上…書類審査及び、公開プレゼンテーション審査により決定
	補助率 10/10

【交付実績】

年 度	事 業 名
R6	誰でもふらっと立ち寄れるコミュニティセルフカフェ「よりみち」
R6	アフリカにある国ってどんな国だろう？

長 崎 伝 習 所 要 綱

（目的）

第1条 この要綱は、長崎伝習所（以下「伝習所」という。）を設け、市民と行政の有機的連携を強化することにより、人材の育成と政策を生み出す活動を行い、もって長崎の再生と創造に寄与することを目的とする。

（事業）

第2条 伝習所の事業は、おおむね次のとおりとする。

- (1) 長崎伝習所「塾」に関すること。
- (2) その他伝習所の目的を達成するために必要と認められる事業

（組織）

第3条 伝習所は、総長及び前条に規定する伝習所の事業を実施する者（以下「実施者」という。）で組織する。

- 2 総長は、長崎市長をもって充てる。
- 3 実施者は、総長が指名する者をもって充てる。

（総長）

第4条 総長は、伝習所の事業を総理し、伝習所を代表する。

- 2 総長に事故があるときは、あらかじめ、その指名する実施者がその職務を代理する。

（運営委員会）

第5条 伝習所に助言機関として運営委員会を置き、その組織、会議等については、別に定める。

- 2 運営委員は、総長が指名する者をもって充てる。
- 3 運営委員会は、伝習所の事業について助言することができる。

（資金）

第6条 伝習所の資金は、長崎市からの補助金、寄付金及びその他のものをもって充てる。

- 2 資金は、安全かつ確実な方法により管理するとともに、適正な執行に務めなければならない。

（事業年度）

第7条 伝習所の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(決算)

第8条 伝習所は、毎事業年度の決算を翌年度の5月31日までに完結しなければならない。

(事務局)

第9条 伝習所の事務局を市民生活部市民協働推進室内に置く。

(委任)

第10条 この要綱に定めるものを除くほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、平成3年5月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成3年8月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成10年4月1日から施行する。

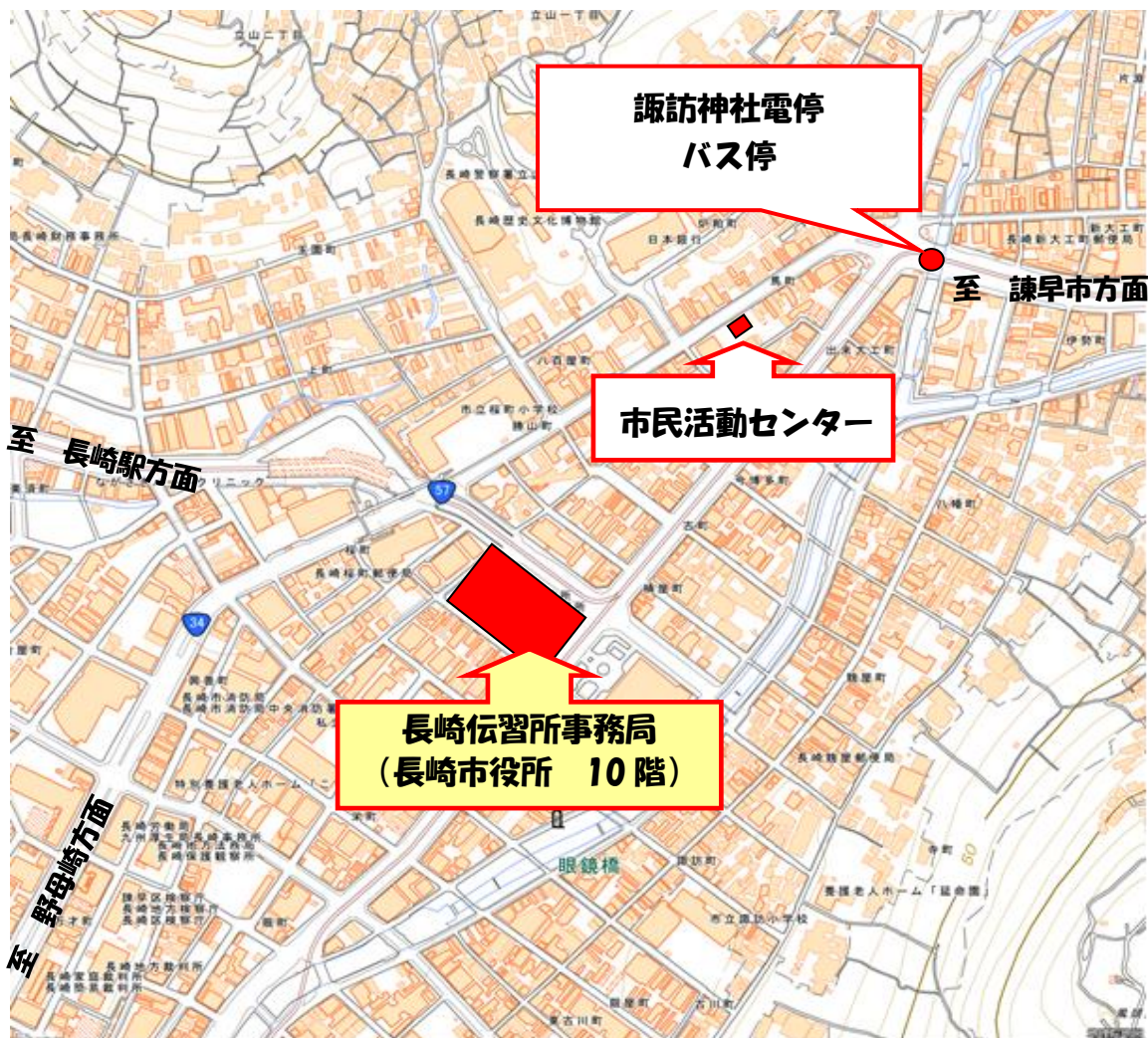
附 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（令和元年8月1日告示第487号）

この要綱は、告示の日から施行する。

長崎伝習所事務局 及び 市民活動センター 位置図



地図出典：地理院地図（電子国土 Web 標準地図）

市役所へのアクセス方法

- 【バス】「市民会館」バス停下車すぐ／「市役所前」（桜町庁舎）バス停下車 徒歩 2 分
 【路面電車】「市役所」電停下車すぐ
 【JR】「長崎駅」から徒歩約 20 分
 【駐車場】庁舎地下に有料駐車場があります。

市民活動センターへのアクセス方法

- 【バス】「市役所上」バス停から徒歩 5 分
 【路面電車】「市役所」電停から徒歩 5 分、「諏訪神社」電停から徒歩 3 分
 【JR】「長崎駅」から徒歩約 20 分
 【駐車場】身体障害者用及び荷捌き用のみとなっております。

お車でお越しの場合は近くの有料駐車場をご利用ください。

「長崎伝習所」令和 6 年度研究成果報告書

発 行：令和 7 年 5 月

編 集：〒850-8685

長崎市魚の町 4-1（10 階）

長崎伝習所事務局（長崎市市民生活部市民協働推進室内）

TEL 095-829-1125 FAX 095-829-1233

E-mail denshusho@city.nagasaki.lg.jp

ホームページ <https://denshusho.jp/>

